

モーセの**第二**の書 通称 出エジプト記

¹ ヤコブと共にエジプトに来たイスラエルの子らの名前は次の通りである。おのおの自分の家族と共に来た。

² ルベン、シメオン、レビ、ユダ、

³ イッサカル、ゼブルン、ベニヤミン、

⁴ ダンとナフタリ、ガドとアシエル。

⁵ ヤコブの腰から出た者はすべて合わせて七十人であった。ヨセフはすでにエジプトにいた。

⁶ ヨセフも、その兄弟たちも、その世代の者もみな死んだ。

⁷ イスラエルの子らは実を結び、おびただしく増え、増え広がり、極めて強くなった。その地は彼らで満ちた。

⁸ さて、ヨセフを知らない新しい王がエジプトに起こった。

⁹ 彼は民に言った。「見よ、イスラエルの子らの民は、われわれよりも多く、また強い。

¹⁰ さあ、彼らに対して賢くふるまおう。彼らが増え、いざ戦争が起きた時に、彼らもわれわれの敵に加わってわれわれと戦い、この地から逃げ出すことのないようにしよう。」

¹¹ そこで彼らは、重労働で彼らを苦しめるために、彼らの上に奴隷監督を置いた。彼らはファラオのために、貯蔵庫の町ピトムとラメセスを建てた。

¹² しかし、エジプト人が彼らを苦しめれば苦しめるほど、彼らはますます増え、ますます広がっている。

った。そのため彼らはイスラエルの子らに恐怖を抱くようになった。

13 エジプト人はイスラエルの子らを過酷に働かせ、

14 モルタルとれんが作りの激しい労働、畑でのあらゆる労働によって、彼らの生活を苦いものにした。エジプト人は、あらゆる労働で彼らを過酷に働かせた。

15 エジプトの王は、ヘブル人の助産婦たちに語った。その一人の名前はシフラといい、もう一人の名前はプアといった。

16 彼は言った。「ヘブル人の女たちのために助産婦の務めを果たし、分娩台の上の彼女たちを見て、もしそれが男の子なら、その子を殺さなければならぬ。しかし、もし女の子なら、生かしておきなさい。」

17 しかし、助産婦たちは神を恐れ*、エジプトの王が命じた通りにはせず、男の赤ん坊を生かしておいた。

18 エジプトの王は助産婦たちを呼び寄せて言った。「なぜこのようなことをして、男の子たちを生かしておいたのか。」

19 助産婦たちはファラオに言った。「ヘブル人の女たちはエジプト人の女たちとは違います。彼女たちは元気で、助産婦が行く前に産んでしまうからです。」

20 神は助産婦たちに良くしてくださった。民は増え、非常に強くなった。

21 助産婦たちが神を恐れたので、神は彼女たちに家庭を与えられた。

* **1:17**

「神」と訳されたヘブル語は「אֱלֹהִים」(エロヒム)である。

22 ファラオは自分のすべての民に命じて言った。「生まれた男の子はみなナイル川に投げ込まなければならない。女の子はみな生かしておきなさい。」

2

1 レビの家のひとりの人が行き、レビの娘を妻に迎えた。

2 その女は身ごもり、男の子を産んだ。彼女はその子が美しいのを見て、三か月の間隠しておいた。

3 もはや隠しきれなくなったので、彼女はパピルスパピルスの籠を取り、それにタールとピッチを塗り、その中に子どもを入れ、川岸の葦葦の間に置いた。

4 その子の姉は、彼がどうなるかを見届けるために、遠く離れて立っていた。

5 ファラオの娘が水浴びのために川に下って来た。彼女の侍女たちは川岸を歩いていた。彼女は葦の間に籠があるのを見つけ、はしためを遣わしてそれを取って来させた。

6 彼女がそれを開けると、そこには子どもがおり、見よ、赤ん坊は泣いていた。彼女はその子をあわれんで言った。「これはヘブル人の子どもの一人です。」

7 その時、その子の姉がファラオの娘に言った。「あなたのためにその子に乳を飲ませる乳母を、私が行ってヘブル人の女たちの中から呼んで来ませうか。」

8 ファラオの娘は彼女に言った。「行きなさい。」少女は行って、その子の母を呼んで来た。

9 ファラオの娘は彼女に言った。「この子を連れて行き、私のために乳を飲ませてください。私があるあなたの賃金を払いましょう。」

女はその子を引き取り、乳を飲ませた。

10 その子が大きくなると、彼女はその子をファラオの娘のところに連れて行き、その子はファラオの娘の息子となった。ファラオの娘はその子をモーセ*と名付けた。「私が彼を水の中から引き出したからです」と彼女が言ったからである。

11 その頃、モーセは成長し、自分の同胞のところに出去行き、彼らの重荷を見た。彼は一人のエジプト人が、自分の同胞であるヘブル人を打ちたたいているのを見た。

12 彼は辺りを見回し、誰もいないのを確認すると、そのエジプト人を殺し、砂の中に隠した。

13 次の日、彼が出て行くと、見よ、二人のヘブル人が互いに争っていた。彼は悪い方の人に行った。「なぜあなたは仲間を打つのか。」

14 その人は言った。「誰があなたをわれわれの指導者や裁判官にしたのか。あなたがエジプト人を殺したように、私をも殺そうとしているのか。」

モーセは恐れて言った。「確かにこの事は知られている。」

15 ファラオはこの事を聞いて、モーセを殺そうとした。しかし、モーセはファラオの顔を避けて逃亡し、ミディアンの地に住み、ある井戸の傍らに座った。

16 さて、ミディアンの祭司には七人の娘がいた。彼女たちが来て水をくみ、水槽を満たして父の羊の群れに水を飲ませようとした。

17 羊飼いたちがやって来て、彼女たちを追い払った。しかし、モーセは立ち上がって彼女たちを助け、その群れに水を飲ませた。

* 2:10 2:10 「モーセ」はヘブル語の「引き出す」という言葉に発音が似ている。

18 彼女たちが父レウエルのもとに帰ると、彼は言った。「今日はなぜこんなに早く帰って来たのか。」

19 彼女たちは言った。「あるエジプト人が、羊飼いたちの手から私たちを救い出してくれました。その上、私たちのために水をくみ、群れに飲ませてくれました。」

20 彼は娘たちに言った。「その人はどこにいるのか。なぜその人を置いてきたのか。彼を呼んで、食事をしてもらいなさい。」

21 モーセはその人と一緒に住むことに同意した。彼は娘チッポラをモーセに与えた。

22 彼女は男の子を産み、モーセはその子をゲルシヨム[†]と名付けた。彼が「私は異国の地で寄留者として生きてきた」と言ったからである。

23 それから長い年月がたつうちに、エジプトの王は死んだ。イスラエルの子らは奴隷の身のゆえにうめき、叫び声をあげた。奴隷の身のゆえの叫びは神に届いた。

24 神は彼らのうめきを聞き、神はアブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。

25 神はイスラエルの子らをご覧になり、神は彼らを御心に留められた。

3

1 さて、モーセはしゅうとであるミディアンの祭司エテロの羊の群れを飼っていた。彼が群れを荒野の奥へと導いて行くと、神の山ホレブに来た。

[†] 2:22 2:22 「ゲルシヨム」はヘブル語の「そこにいる寄留者」という言葉に発音が似て

2 主*の使いが、柴の真ん中から燃え上がる炎の中で彼に現れた。彼が見ると、見よ、柴は火で燃えているのに、燃え尽きていなかった。

3 モーセは言った。「さあ、行ってこの大いなる光景を見よう。なぜ柴が燃え尽きないのか。」

4 主は彼が見ようとして近づいて来るのをご覧になり、神は柴の真ん中から彼を呼んで、「モーセよ、モーセよ」と言われた。

彼は「ここにおります」と言った。

5 神は言われた。「近づいてはいけない。あなたの足の履き物を脱ぎなさい。あなたが立っている場所は聖なる地だからである。」

6 さらに神は言われた。「わたしはあなたの父の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」

モーセは神を見ることを恐れ、顔を隠した。

7 主は言われた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみを確かに見、奴隷監督たちのゆえの彼らの叫びを聞いた。わたしは彼らの悲しみを知っている。

8 わたしが下って来たのは、彼らをエジプト人の手から救い出し、その地から、広くて良い地、乳と蜜の流れる地へ、すなわちカナン人、ヘト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人のいる場所へ彼らを導き上げるためである。

9 今、見よ、イスラエルの子らの叫びがわたしに届いた。さらにわたしは、エジプト人が彼らをしていたげているその圧制を見た。

* 3:23:2 すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה (ヤハウェ) から来てい

10 さあ、行きなさい。わたしはあなたをファラオのもとへ遣わす。あなたがわたしの民、イスラエルの子らをエジプトから導き出すためである。」

11 モーセは神に言った。「私がファラオのところに行き、イスラエルの子らをエジプトから導き出すとは、私はいったい何者なののでしょうか。」

12 神は言われた。「わたしは必ずあなたと共にいる。これが、わたしがあなたを遣わしたことのしるしとなる。あなたが民をエジプトから導き出した時、あなたがたはこの山で神に仕えることになる。」

13 モーセは神に言った。「見よ、私がイスラエルの子らのところに行き、『あなたがたの父祖の神が、私をあなたがたのもとに遣わされた』と彼らに言う時、彼らが私に『その名は何というのか』と尋ねたら、私は彼らに何と答えるべきでしょうか。」

14 神はモーセに言われた。「わたしは、わたしがあるところの者である。」そして言われた。「あなたはイスラエルの子らにこう言いなさい。『「わたしはある」という方が、私をあなたがたのもとに遣わされた』と。」

15 神はさらにモーセに言われた。「あなたはイスラエルの子らにこう言いなさい。『主[†]、あなたがたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神が、私をあなたがたのもとに遣わされた。』これが永遠にわたしの名であり、これがすべての世代に対するわたしの記念の名である。

16 行って、イスラエルの長老たちを集め、彼らに言いなさい。『主、あなたがたの父祖の神、アブ

† 3:153:15 すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来て

ラハム、イサク、ヤコブの神が私に現れて、こう言われた。「わたしは確かにあなたがたを顧み、エジプトであなたがたにされたことを見た。

17 わたしは言った。わたしはあなたがたをエジプトの苦しみから、カナン人、ヘト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の地、乳と蜜の流れる地へ導き上げる。」』

18 彼らはあなたの声に聞き従うであろう。あなたはイスラエルの長老たちと共にエジプトの王のもとに行き、彼に言いなさい。『ヘブル人の神、主が私たちにお会いになりました。どうか今、私たちを荒野へ三日の道のりを行かせ、私たちの神、主にいけにえを献げさせてください。』

19 わたしは知っている。エジプトの王は、強い手によってさえ、あなたがたが行くのを許さないであろうことを。

20 わたしは手を伸ばし、彼らのただ中で行うわたしのすべての不思議な業によってエジプトを打つ。その後で、彼はあなたがたを行かせるであろう。

21 わたしは、この民がエジプト人の目に好意を得るようにする。あなたがたが行く時、手ぶらで行くことはない。

22 女はみな、隣の女や家に滞在している女から、銀の飾り、金の飾り、衣服を求める。あなたがたはそれらを自分の息子や娘に着せる。あなたがたはエジプト人から奪い取るのである。」

4

1 モーセは答えた。「しかし、見よ、彼らは私を信じず、私の声に聞き従わないでしょう。彼らは『主はあなたに現れていない』と言うからです。」

2 主は彼に言われた。「あなたの手にあるそれは何か。」

彼は言った。「杖です。」

3 主は言われた。「それを地面に投げなさい。」

彼がそれを地面に投げると、それは蛇になった。モーセはそれから逃げ出した。

4 主はモーセに言われた。「手を伸ばし、その尾をつかみなさい。」

彼が手を伸ばしてそれをつかむと、彼の手の中で杖になった。

5 「これは、彼らの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である主があなたに現れたことを、彼らが信じるためである。」

6 主はさらに彼に言われた。「今、あなたの手をふところに入れなさい。」

彼が手をふところに入れ、それを取り出すと、見よ、彼の手は皮膚病に冒され、雪のように白くなっていた。

7 主は言われた。「あなたの手をもう一度ふところに入れなさい。」

彼がもう一度手をふところに入れ、ふところからそれを取り出すと、見よ、それは再び元の肉のようになっていた。

8 「もし彼らがあなたを信じず、最初のしるしの声に聞き従わないなら、後のしるしの声は信じるであろう。」

9 もし彼らがこれら二つのしるしさえも信じず、あなたの声にも聞き従わないなら、あなたは Nile 川の水を取って乾いた土の上に注ぎなさい。川から取った水は乾いた土の上で血となるであろう。」

10 モーセは主^{*}に言った。「ああ、主よ*、私は弁が立つ者ではありません。以前からも、あなたがしもべに語られてからもです。私は口が重く、舌が重いのです。」

11 主は彼に言われた。「誰が人の口を造ったのか。誰が人を口のきけない者にし、耳の聞こえない者にし、目の見える者にし、また盲目の者にするのか。それは主であるわたしではないか。」

12 だから今、行きなさい。わたしはあなたの口と共にあり、あなたが何を語るべきかを教えよう。」

13 モーセは言った。「ああ、主よ、どうかほかの人を遣わしてください。」

14 主の怒りがモーセに向かって燃え上がり、言われた。「あなたの兄弟、レビ人アロンがいるではないか。わたしは彼がうまく話せることを知っている。また見よ、彼があなたを迎えに出て来るところだ。彼はあなたを見て、心から喜ぶであろう。」

15 あなたは彼に語り、その口に言葉を授けなさい。わたしはあなたの口と彼の口と共にあり、あなたがたのなすべきことを教えよう。」

16 彼はあなたに代わって民に語る口となる。彼はあなたにとって口となり、あなたは彼にとって神のようになる。」

17 あなたはこの杖を手に取りなさい。それによってしるしを行うのである。」

18 モーセはしゅうとエテロのもとに帰って行った。そして彼に言った。「どうか私を行かせ、エジプトにいる私の同胞たちのもとに帰らせて、彼らがまだ生きているかどうかを見させてください。」

エテロはモーセに「安心して行きなさい」と言った。

* 4:10 4:10 「主」と訳された言葉は「アドナイ」である。

19 主はミディアンでモーセに言われた。「行って、エジプトに帰りなさい。あなたの命を狙っていた者たちは皆、死んだからである。」

20 モーセは妻と息子たちを連れ、彼らをろばに乗せてエジプトの地へ帰って行った。モーセは手に神の杖を持っていた。

21 主はモーセに言われた。「あなたがエジプトへ帰って行く時、わたしがあなたの手にゆだねたすべての不思議な業を、ファラオの前で必ず行いなさい。しかし、わたしは彼の心をかたくなにするので、彼は民を行かせないであろう。

22 あなたはファラオに言いなさい。『主はこう言われる。イスラエルはわたしの子、わたしの長子である。』

23 わたしはあなたに言った。「わたしの子を行かせ、わたしに仕えさせなさい。」しかしあなたは彼を行かせることを拒んだ。見よ、わたしはあなたの長子を殺す。』

24 途中の宿泊所で、主はモーセに出会い、彼を殺そうとされた。

25 その時、チッポラは火打石を取り、息子の包皮を切り取り、それを彼の足もとに投げて言った。「あなたは確かに私にとって血の花婿です。」

26 それで主は彼から離れられた。その時、彼女は割礼のゆえに「あなたは血の花婿です」と言ったのである。

27 主はアロンに言われた。「荒野に行つてモーセに会いなさい。」

彼は行き、神の山でモーセに会い、彼に口づけした。

28 モーセは、自分を遣わした主のすべての言葉と、主が命じたすべてのしるしをアロンに伝えた。

29 モーセとアロンは行って、イスラエルの子らのすべての長老を集めた。

30 アロンは、主がモーセに語られたすべての言葉語り、民の目の前でしるしを行った。

31 民は信じた。主がイスラエルの子らを顧み、彼らの苦しみをご覧になったことを聞いた時、彼らは頭を下げて礼拝した。

5

1 その後、モーセとアロンは来て、ファラオに言った。「イスラエルの神、主はこう言われます。『わたしの民を行かせ、荒野でわたしのために祭りを開かせなさい。』」

2 ファラオは言った。「主とは何者か。私がおの声に聞き従い、イスラエルを行かせなければならぬのか。私は主を知らない。それに、イスラエルを行かせることもしない。」

3 彼らは言った。「ヘブル人の神が私たちに会いになりました。どうか荒野へ三日の道のりを行かせ、私たちの神、主にいけにえを献げさせてください。そうしなければ、主は疫病や剣で私たちに打たれるでしょう。」

4 エジプトの王は彼らに言った。「モーセとアロンよ、なぜあなたがたは民を仕事から離れさせようとするのか。自分たちの重荷に戻りなさい。」

5 ファラオは言った。「見よ、今やこの地の民は多い。それなのに、あなたがたは彼らを労働から休ませようとしている。」

6 その日、ファラオは民の奴隷監督たちと役人たちに命じて言った。

7 「れんがを作るためのわらを、これまでのように民に与えてはならない。彼ら自身に行かせて、わらを集めさせなさい。」

8 また、彼らがこれまで作っていたれんがの規定量を彼らに課しなさい。それを減らしてはならない。彼らは怠けているのだ。だから、『行って、私たちの神にいけにえを献げさせてください』と叫ぶのだ。

9 この人々にさらに重い仕事を課し、それに励ませなさい。偽りの言葉に注意を払わせないようにしなさい。」

10 民の奴隷監督たちと役人たちは出て行き、民に語って言った。「ファラオはこう言われる。『あなたがたにわらを与えない。

11 自分たちで行き、見つけられる所でわらを取りなさい。あなたがたの仕事は少しも減らされない。』」

12 そこで民はエジプトの地全体に散らばり、わらの代わりに刈り株を集めた。

13 奴隷監督たちは彼らを急き立てて言った。「わらがあった時と同じように、毎日の仕事の規定量を果たしなさい。」

14 ファラオの奴隷監督たちがイスラエルの子らの上に立てた役人たちは打ちたたかれ、「なぜ昨日も今日も、これまでのようにれんが作りの規定量を果たさなかったのか」と責められた。

15 そこで、イスラエルの子らの役人たちは来て、ファラオに叫んで言った。「なぜ、あなたのもべたちにこのような扱いをなさるのですか。

16 あなたのしもべたちにわらが与えられないのに、彼らは『れんがを作れ』と言います。見よ、あなたのもべたちは打ちたたかれています、悪いのはあなたの民なのです。」

17 しかしファラオは言った。「おまえたちは怠けているのだ。怠けているのだ。だから、『行って、主にいけにえを献げさせてください』と言うのだ。

18 だから今、行って働きなさい。わらは与えられないが、同じ数のれんがを納めなければならない。」

19 イスラエルの子らの役人たちは、「毎日のれんがの規定量を減らしてはならない」と言われた時、自分たちが苦境にあるのを知った。

20 彼らはファラオのところから出て来た時、道で待っていたモーセとアロンに会い、

21 彼らに言った。「主があなたがたを見て裁かれますように。あなたがたは、ファラオの目と、その家臣たちの目に、私たちが忌み嫌われる悪臭を放つ者とし、私たちが殺すための剣を彼らの手に渡したからです。」

22 モーセは主のところに戻って言った。「主よ、なぜあなたはこの民に苦しみをもたらされたのですか。なぜ私を遣わされたのですか。」

23 私があなたの御名によって語るためにファラオのところに来て以来、彼はこの民に苦しみをもたらしています。それなのに、あなたは自分の民を全く救い出していません。」

6

1 主はモーセに言われた。「今、あなたはわたしがファラオにすることをみるであろう。強い手によって彼は彼らを行かせ、強い手によって自分の地から彼らを追い出すであろう。」

2 神はモーセに語り、彼に言われた。「わたしは主である。」

3 わたしはアブラハム、イサク、ヤコブに**全能の神**として現れたが、わたしの**名**である**主***としては、彼らに自らを知らせなかった。

4 わたしはまた、彼らと**契約**を立て、彼らが**寄留者**として住んでいた**寄留の地**、**カナンの地**を彼らに**与える**ことにした。

5 さらに、わたしはエジプト人が**奴隷**としている**イスラエルの子ら**のうめきを聞き、わたしの**契約**を思い起こした。

6 それゆえ、**イスラエルの子ら**に言いなさい。
『わたしは**主**である。わたしはエジプト人の**重労働**の下からあなたがたを**導き出し**、彼らの**奴隷**の身からあなたがたを**救い出す**。わたしは**伸ばした腕**と**大いなる裁き**によってあなたがたを**贖う**。

7 わたしはあなたがたをわたしの**民**とし、わたしはあなたがたの**神**となる。あなたがたは、わたしがあなたがたをエジプト人の**重労働**の下から**導き出す**、あなたがたの**神**、**主**であることを知るであろう。

8 わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに**与える**と**誓った地**にあなたがたを**導き入れ**、それをあなたがたの**所有**として**与える**。わたしは**主**である。』

9 モーセはそのように**イスラエルの子ら**に語ったが、彼らは**心が打ちひしがれ**、**過酷な奴隷労働**のゆえに、モーセに**聞き従わ**なかった。

10 **主**はモーセに語って**言われた**。

11 「**行きなさい**。エジプトの**王ファラオ**に語り、**イスラエルの子ら**を**彼の地**から**去らせる**ように**言いなさい**。」

* **6:36:3** すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה (ヤハウェ) から来てい

12 モーセは主の前で語って言った。「見よ、イスラエルの子らさえ私に聞き従いませんでした。どうしてファラオが私に聞き従うでしょうか。私は唇に割礼を受けていない者ですのに。」

13 主はモーセとアロンに語り、イスラエルの子らとエジプトの王ファラオに対して命令を与えて、イスラエルの子らをエジプトの地から導き出すようにされた。

14 彼らの父祖の家々の長は次の通りである。イスラエルの長子ルベンの子らは、エノク、パル、ヘツロン、カルミ。これらはルベンの諸氏族である。

15 シメオンの子らは、イムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ツォハル、そしてカナン人の女の息子サウル。これらはシメオンの諸氏族である。

16 その世代に基づくレビの子らの名前は次の通りである。ゲルシオン、ケハト、メラリ。レビの生涯の年は百三十七年であった。

17 その諸氏族に基づくゲルシオンの子らは、リブニとシムイである。

18 ケハトの子らは、アムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエル。ケハトの生涯の年は百三十三年であった。

19 メラリの子らは、マフリとムシ。これらがその世代に基づくレビ人の諸氏族である。

20 アムラムは父の妹ヨケベデを妻とし、彼女は彼にアロンとモーセを産んだ。アムラムの生涯の年は百三十七年であった。

21 イツハルの子らは、コラ、ネフェグ、ジクリである。

22 ウジエルの子らは、ミシヤエル、エルツアファン、シトリである。

23 アロンはアミナダブの娘でナフシオンの妹であるエリシエバを妻とし、彼女は彼にナダブ、アビフ、エルアザル、イタマルを産んだ。

24 コラの子らは、アシル、エルカナ、アビアサフ。これらがコラ人の諸氏族である。

25 アロンの息子エルアザルはプティエルの娘の一人を妻とし、彼女は彼にピネハスを産んだ。これらがその諸氏族に基づくレビ人の父祖の家々の長である。

26 「イスラエルの子らとその軍団ごとにエジプトの地から導き出せ」と主が言われたのは、このアロンとモーセである。

27 イスラエルの子らをエジプトから導き出すためにエジプトの王ファラオに語ったのは彼らである。それがこのモーセとアロンである。

28 主がエジプトの地でモーセに語られた日、

29 主はモーセに言われた。「わたしは主である。わたしがあなたに語るすべてのことを、エジプトの王ファラオに語りなさい。」

30 モーセは主の前で言った。「見よ、私は唇に割礼を受けていない者です。どうしてファラオが私に聞き従うでしょうか。」

7

1 主はモーセに言われた。「見よ、わたしはあなたをファラオに対して神のようにした。あなたの兄弟アロンはあなたの預言者となる。

2 あなたは、わたしが命じるすべてのことを語らなければならない。そして、あなたの兄弟アロンは、イスラエルの子らを彼の地から去らせるようにファラオに語るのである。

3 わたしはファラオの心をかたくなにし、エジプトの地でわたしのしるしと不思議な業を増し加える。

4 しかしファラオはあなたがたに聞き従わないであろう。それで、わたしはエジプトに手を下し、大いなる裁きによって、わたしの軍団でありわたし

の民であるイスラエルの子らをエジプトの地から導き出す。

⁵わたしがエジプトの上に手を伸ばし、イスラエルの子らを彼らの中から導き出す時、エジプト人はわたしが主であることを知るであろう。」

⁶モーセとアロンはそのようにした。主が彼らに命じられた通りに行ったのである。

⁷彼らがファラオに語った時、モーセは八十歳、アロンは八十三歳であった。

⁸主はモーセとアロンに語って言われた。

⁹「ファラオがあなたがたに『奇跡を示してみよ』と言うなら、あなたはアロンに『あなたの杖を取り、ファラオの前に投げなさい』と言いなさい。それは蛇になるであろう。」

¹⁰モーセとアロンはファラオのところに行き、主が命じられた通りにした。アロンはファラオとその家臣たちの前に杖を投げ、それは蛇になった。

¹¹そこでファラオも賢者たちや呪術師たちを呼び寄せた。エジプトの魔術師たちもまた、彼らの秘術を使って同じことをした。

¹²彼らもそれぞれ自分の杖を投げ、それらは蛇になった。しかしアロンの杖は彼らの杖を飲み込んだ。

¹³しかしファラオの心はかたくなになり、主が語られた通り、彼らに聞き従わなかった。

¹⁴主はモーセに言われた。「ファラオの心は強情である。彼は民を行かせることを拒んでいる。

¹⁵朝、ファラオのところに行きなさい。見よ、彼は水辺に出て来る。あなたは彼に会うために川岸に立ちなさい。そして、蛇に変わったあの杖を手に取りなさい。

¹⁶あなたは彼に言いなさい。『ヘブ
ル人の神、主が私をあなたのもとに遣わして言われ

ました。「わたしの民を行かせ、荒野でわたしに仕えさせなさい。」見よ、今まであなたは聞き従わなかった。

17 主はこう言われます。「これによって、あなたはわたしが主であることを知るであろう。見よ、私が手にしているこの杖で川の水を打つと、水は血に変わる。

18 川の魚は死に、川は悪臭を放つようになる。エジプト人は川から水を飲むことを忌み嫌うようになるであろう。」』

19 主はモーセに言われた。「アロンに言いなさい。『あなたの杖を取り、エジプトの水、その川、水路、池、およびすべての貯水池の上に手を伸ばして、それらを血に変えなさい。』そうすれば、エジプトの地全体で、木の器や石の器の中にさえ、血があるようになるであろう。」

20 モーセとアロンは主が命じられた通りにした。彼はファラオの目の前と、その家臣たちの目の前で杖を上げ、川の水を打った。すると、川の水はすべて血に変わった。

21 川の魚は死んだ。川は悪臭を放った。エジプト人は川から水を飲むことができなくなった。血はエジプトの地全体に及んだ。

22 エジプトの魔術師たちも彼らの秘術を使って同じことをした。そのため、ファラオの心はかたくなになり、主が語られた通り、彼らに聞き従わなかった。

23 ファラオは向き直って自分の家に入り、このときさえ心に留めなかった。

24 エジプト人は皆、飲む水を得るために川の周辺を掘った。川の水を飲むことができなかったからである。

25 主が川を打たれてから、七日が満ちた。

8

1 主はモーセに語られた。「ファラオのところに行き、彼に言いなさい。『主はこう言われます。「わたしの民を行かせ、わたしに仕えさせなさい。

2 もしあなたが行かせることを拒むなら、見よ、わたしはあなたの領土全体をカエルで打つ。

3 川にはカエルが群がり、それらはい上がって、あなたの家、寝室、ベッドの上、あなたの家臣たちの家、あなたの民の上、そしてあなたのかまどやこね鉢の中に入るであろう。

4 カエルはあなたの上にも、あなたの民の上にも、あなたのすべての家臣の上にもはい上がるであろう。』」

5 主はモーセに言われた。「アロンに言いなさい。『あなたの杖を持った手を川、水路、池の上に伸ばし、カエルをエジプトの地にはい上がらせなさい。』」

6 アロンがエジプトの水の上に手を伸ばすと、カエルはい上がって来て、エジプトの地を覆った。

7 魔術師たちも彼らの秘術を使って同じことをし、カエルをエジプトの地にはい上がらせた。

8 その時、ファラオはモーセとアロンを呼び寄せて言った。「主にお願ひして、私と私の民からカエルを取り除いてくれ。そうすれば民を行かせ、彼らが主にいけにえを献げられるようにしよう。」

9 モーセはファラオに言った。「私があなたとあなたの家臣とあなたの民のために祈り、カエルがあなたとあなたの家々から断たれ、ただ川にだけ残るようにする時を定める榮譽を、あなたにお譲りしましょう。」

10 ファラオは「明日だ」と言った。

モーセは言った。「あなたの言葉通りになりますように。私たちの神、主のような方は他にいないことを、あなたが知るためです。

11 カエルはあなたから、あなたの家から、あなたの家臣から、あなたの民から去り、川にだけ残るでしょう。」

12 モーセとアロンはファラオのところから出て行った。そしてモーセは、主がファラオにもたらしたカエルについて主に叫び求めた。

13 主はモーセの言葉通りにされ、カエルは家の中から、庭から、畑から死に絶えた。

14 彼らがそれらを山積みになると、地は悪臭を放った。

15 しかしファラオは、一息つけるようになったのを見ると、心をかたくなにし、主が語られた通り、彼らに聞き従わなかった。

16 主はモーセに言われた。「アロンに言いなさい。『あなたの杖を伸ばして地のちりを打ち、エジプトの地全体でそれがシラミになるようにしなさい。』」

17 彼らはそのようにした。アロンが杖を持った手を伸ばして地のちりを打つと、人や動物の上にシラミがたかった。エジプトの地全体で、地のちりがすべてシラミになった。

18 魔術師たちも彼らの秘術を使ってシラミを出そうとしたが、できなかった。シラミは人や動物の上にたかった。

19 そこで魔術師たちはファラオに言った。「これは神の指です。」しかしファラオの心はかたくなになり、主が語られた通り、彼らに聞き従わなかった。

20 主はモーセに言われた。「朝早く起き、ファラオの前に立ちなさい。見よ、彼は水辺に出て来る。

彼に言いなさい。『主はこう言われます。「わたしの民を行かせ、わたしに仕えさせなさい。

21 そうでなく、もしわたしの民を行かせないなら、見よ、わたしはあなたと、あなたの家臣と、あなたの民と、あなたの家の中にハエの群れを送る。エジプト人の家々はハエの群れで満ち、彼らがいる地面もそうなるであろう。

22 その日、わたしはわたしの民が住んでいるゴシェンの地を区別し、そこにはハエの群れがないようにする。それは、わたしがこの地における主であることを、あなたが知るためである。

23 わたしはわたしの民とあなたの民とを区別する。明日、このしるしが起こるであろう。』」

24 主はそのようにされた。激しいハエの群れがファラオの家とその家臣たちの家に入って来た。エジプトの地全体で、地はハエの群れによって荒れ果てた。

25 ファラオはモーセとアロンを呼び寄せて言った。「行って、この地であなたがたの神にいけにえを献げなさい。」

26 モーセは言った。「そのようにするのは適切ではありません。私たちは、私たちの神、主にエジプト人の忌み嫌うものをいけにえとして献げるからです。見よ、私たちがエジプト人の忌み嫌うものを彼らの目の前でいけにえとして献げたら、彼らは私たちを石で打ち殺さないでしょうか。

27 私たちは荒野へ三日の道のりを行き、私たちの神、主に命じられる通りにいけにえを献げます。」

28 ファラオは言った。「あなたがたを行かせよう。あなたがたは荒野であなたがたの神、主にいけにえを献げなさい。ただし、決して遠くへ行つてはならない。私のために祈ってくれ。」

29 モーセは言った。「見よ、私はあなたのところから出て行きます。明日、ハエの群れがファラオと、その家臣と、その民から去るように、私は主に祈りましょう。ただ、ファラオが民を行かせて主にいけにえを献げさせることにおいて、これ以上欺くことのないようにしてください。」

30 モーセはファラオのところから出て行き、主に祈った。

31 主はモーセの言葉通りにされ、ハエの群れをファラオと、その家臣と、その民から取り除かれた。一匹も残らなかった。

32 しかしファラオは、この時も心をかたくなにし、民を行かせなかった。

9

1 主はモーセに言われた。「ファラオのところに行き、彼に言いなさい。『ヘブル人の神、主はこう言われます。「わたしの民を行かせ、わたしに仕えさせなさい。

2 もしあなたが行かせることを拒み、依然として彼らを留めておくなら、

3 見よ、主の手は野にいるあなたの家畜、すなわち馬、ろば、らくだ、牛の群れ、羊の群れの上に下り、非常に激しい疫病が起こるであろう。

4 主はイスラエルの家畜とエジプトの家畜とを区別される。イスラエルの子らに属するものは、一頭も死ぬことはない。』」

5 主は定めの時を設けて言われた。「明日、主はこの地でこの事を行われる。」

6 主は次の日にその事を行われた。エジプトの家畜はすべて死んだが、イスラエルの子らの家畜は一頭も死ななかった。

7 ファラオが人をやって調べさせると、見よ、イスラエル人の家畜は一頭も死んでいなかった。しかしファラオの心は強情であり、彼は民を行かせなかった。

8 主はモーセとアロンに言われた。「炉の灰を両手いっぱいに取り、ファラオの目の前で、モーセがそれを天に向かってまき散らしなさい。

9 それはエジプトの地全体に細かいちりとなり、エジプトの地全体で、人や動物に腫れ物と水ぶくれを生じさせるであろう。」

10 彼らは炉の灰を取り、ファラオの前に立った。モーセがそれを天に向かってまき散らすと、それは人や動物に腫れ物と水ぶくれを生じさせた。

11 魔術師たちは腫れ物のためにモーセの前に立つことができなかった。腫れ物が魔術師たちとすべてのエジプト人にできたからである。

12 主はファラオの心をかたくなにされ、主がモーセに語られた通り、彼は彼らに聞き従わなかった。

13 主はモーセに言われた。「朝早く起き、ファラオの前に立ち、彼に言いなさい。『へブル人の神、主はこう言われます。「わたしの民を行かせ、わたしに仕えさせなさい。

14 今回、わたしはすべての災いをあなたの心と、あなたの家臣と、あなたの民に対して送る。それは、全地でわたしのような者がいないことを、あなたが知るためである。

15 今、わたしが手を伸ばし、あなたとあなたの民を疫病で打っていたなら、あなたは地から断ち切られていたであろう。

16 しかし、わたしはこのことのためにあなたを立たせた。すなわち、あなたにわたしの力を示し、わたしの名が全地に宣言されるためである。

17 あなたはまだわたしの民に対して高ぶり、彼らを行かせないのか。

18 見よ、明日の今頃、わたしはエジプトが建国された日から今に至るまでなかったような、非常に激しい雹を降らせる。

19 だから今、あなたの家畜と、野にいるあなたのすべてのものを避難させるよう命じなさい。家に連れ戻されず、野にいる人や動物は皆、雹が降ってきて死ぬであろう。」』」

20 ファラオの家臣の中で主の言葉を恐れた者は、自分のしもべたちや家畜を家の中に逃げ込ませた。

21 主の言葉を心に留めなかった者は、自分のしもべたちや家畜を野に残した。

22 主はモーセに言われた。「あなたの手を天に向けて伸ばし、エジプトの地全体で、人や動物、また野のすべての草の上に、雹が降るようにしなさい。」

23 モーセが杖を天に向けて伸ばすと、主は雷と雹を送られ、稲妻が地に向かってひらめいた。主はエジプトの地に雹を降らせた。

24 非常に激しい雹が降り、雹の間に稲妻がひらめいた。それはエジプトが国となって以来、その地全体でかつてなかったほどのものであった。

25 雹はエジプトの地全体で、野にいるすべての人と動物を打った。雹は野のすべての草を打ち、野のすべての木を打ち砕いた。

26 イスラエルの子らがいたゴシェンの地にだけは、雹は降らなかった。

27 ファラオは人をやってモーセとアロンを呼び寄せ、彼らに言った。「今回、私は罪を犯した。主は義であり、私と私の民は悪者だ。」

28 主に祈ってくれ。激しい雷と雹はもうたくさんだ。あなたがたを行かせよう。これ以上とどまることはない。」

29 モーセは彼に言った。「町を出たらすぐに、私は主に向かって両手を広げます。雷は止み、もはや雹は降らないでしょう。それは、この地が主のものであることを、あなたが知るためです。

30 しかし、あなたとあなたの家臣については、あなたがたがまだ神である主を恐れていないことを私は知っています。」

31 亜麻と大麦は打たれた。大麦は実っており、亜麻は花を咲かせていたからである。

32 しかし、小麦とスペルト小麦は打たれなかった。これらはまだ成長していなかったからである。

33 モーセはファラオのところから町を出て、主に向かって両手を広げた。すると雷と雹は止み、雨は地に注がれなくなった。

34 雨と雹と雷が止んだのを見ると、ファラオはさらに罪を重ね、彼もその家臣も心をかたくなにした。

35 ファラオの心はかたくなになり、主がモーセを通して語られた通り、彼はイスラエルの子らを行かせなかった。

10

1 主はモーセに言われた。「ファラオのところに行きなさい。わたしが彼とその家臣の心をかたくなにしたのは、これらのわたしのしるしを彼らの中で示すためであり、

2 また、わたしがエジプトに対して行った事や、彼らの中で行ったわたしのしるしを、あなたが息子や孫に語り伝えるためである。それは、わたしが主であることをあなたがたが知るためである。」

3 モーセとアロンはファラオのところに行き、彼に言った。「ヘブル人の神、主はこう言われます。『あなたはいつまで、わたしの前にへりくだることを拒むのか。わたしの民を行かせ、わたしに仕えさせなさい。』」

4 もしあなたがわたしの民を行かせることを拒むなら、見よ、明日わたしはいなごをあなたの国に送る。

5 それらは地の面を覆い、誰も地を見ることができなくなる。それらは雹から逃れてあなたがたに残された残りのものを食べ、また野であなたがたのために育っている木をすべて食べるであろう。

6 あなたの家々、すべての家臣の家々、そしてすべてのエジプト人の家々は、いなごで満たされるであろう。このようなことは、あなたの父祖たちも、そのまた父祖たちも、彼らが地上にいた日から今日に至るまで、見たことがない。』」モーセは向き直り、ファラオのところから出て行った。

7 ファラオの家臣たちは彼に言った。「いつまでこの男は私たちにとっての罨となるのでしょうか。男たちを行かせ、彼らの神、主に仕えさせてください。エジプトが滅びてしまったことが、まだお分かりにならないのですか。」

8 モーセとアロンは再びファラオのもとに連れ戻された。彼は彼らに言った。「行って、あなたがたの神、主に仕えなさい。しかし、行くのは誰か。」

9 モーセは言った。「私たちは若者も老人も共に連れて行きます。息子も娘も、羊の群れも牛の群れも連れて行きます。私たちは主の祭りを祝わなければならないからです。」

10 ファラオは彼らに言った。「私あなたがたの子どもたちと一緒に行かせるとしたら、主があな

たがたに味方してくださるように。見よ、明らかに悪事がおまえたちの顔の前にある。

11 そうはいかない。男たちだけ行って、主に仕えなさい。それこそおまえたちが望んでいたことではないか。」こうして、彼らはファラオの前から追い出された。

12 主はモーセに言われた。「いなごのために、エジプトの地の上に手を伸ばしなさい。それらがエジプトの地にはい上がり、地のすべての草、すなわち雹が残したすべてのものを食べるようにしなさい。」

13 モーセがエジプトの地の上に杖を伸ばすと、主はその日一日中、そして一晩中、地の上に東風を吹かせた。朝になると、東風がいなごを運んで来た。

14 いなごはエジプトの地全体にはい上がり、エジプトの全領土にとどまった。それは非常に激しいものであった。あのような規模のいなごはかつてなく、また今後もないであろう。

15 それらは地の面全体を覆ったので、地は暗くなった。それらは地のすべての草と、雹が残した木のすべての実を食べた。エジプトの地全体を通して、木にも野の草にも、緑のものは何も残らなかった。

16 そこでファラオは急いでモーセとアロンを呼び寄せて言った。「私はあなたがたの神、主に対して、またあなたがたに対して罪を犯した。

17 どうか今、もう一度だけ私の罪を赦し、あなたがたの神、主に祈って、この死だけは私から取り除いてくれ。」

18 モーセはファラオのところから出て行き、主に祈った。

19 主は非常に強い西風を送り、それがいなごを巻き上げ、紅海*に追い払った。エジプトの全領土に一匹のいなごも残らなかった。

20 しかし、主はファラオの心をかたくなにされ、彼はイスラエルの子らを行かせなかった。

21 主はモーセに言われた。「あなたの手を天に向けて伸ばし、エジプトの地の上に暗闇、手で触れるほどの暗闇をもたらしなさい。」

22 モーセが天に向けて手を伸ばすと、三日間、エジプトの地全体が濃い暗闇に覆われた。

23 三日間、人々は互いを見ることも、誰も自分の場所から動くこともなかった。しかし、イスラエルの子らが住む所にはすべて光があった。

24 ファラオはモーセを呼び寄せて言った。「行って、主に仕えなさい。ただ、あなたがたの羊の群れと牛の群れは残しておけ。子どもたちも一緒に連れて行くがよい。」

25 モーセは言った。「私たちが私たちの神、主にいけにえを献げるために、あなたは犠牲や全焼のいけにえも私たちの手に渡さなければなりません。

26 私たちの家畜も一緒に連れて行きます。ひづめ一つ残すことはありません。私たちはそこから取って私たちの神、主に仕えなければならないからです。そして私たちはそこに行くまで、何をもって主に仕えるべきか分からないのです。」

27 しかし主はファラオの心をかたくなにされ、彼は彼らを行かせようとはしなかった。

28 ファラオは彼に言った。「私の前から立ち去れ。二度と私の顔を見ないように気をつけ

* 10:19 10:19 「紅海」はヘブル語の「ヤム・スフ」の翻訳であり、文字通りには「葦

ろ。私の顔を見るその日に、おまえは死ぬであろう。」

29 モーセは言った。「おっしゃる通りです。私は二度とあなたの顔を見ることはないでしょう。」

11

1 主はモーセに言われた。「わたしはファラオとエジプトに、もう一つの災いをもたらす。その後、彼はあなたがたを行かせるであろう。彼があなたがたを行かせる時、彼は必ずあなたがたをここからすっきり追い出すであろう。」

2 今、民の耳に語りなさい。男は自分の隣人から、女は自分の隣人から、銀の飾りと金の飾りを求めるようにさせなさい。」

3 主は、民がエジプト人の目に好意を得るようにされた。さらに、モーセという人はエジプトの地で、ファラオの家臣たちの目にも、民の目にも、非常に偉大であった。

4 モーセは言った。「主はこう言われます。『真夜中ごろ、わたしはエジプトのただ中に出て行く。』

5 そして、王座に座るファラオの長子から、ひき臼の後ろにいる女奴隷の長子に至るまで、エジプトの地のすべての長子は死ぬ。また家畜の初子もすべて死ぬ。」

6 エジプトの全地に、これまでになかったような、また二度とないような大きな叫びが起こるであろう。」

7 しかし、イスラエルの子らのだれに対しても、人に対しても動物に対しても、犬さえ舌を動かして吠えることはない。それは、主がエジプト人とイスラエルとを区別されることを、あなたがたが知るためである。』

8 あなたのこれらの家臣たちは皆、私のところに下って来て私にひれ伏し、『あなたと、あなたに従うすべての民は出て行ってくれ』と言うでしょう。その後で、私は出て行きます。」モーセは激しく怒って、ファラオのところから出て行った。

9 主はモーセに言われた。「ファラオはあなたがたに聞き従わないであろう。それは、わたしの不思議な業がエジプトの地で増し加わるためである。」

10 モーセとアロンはファラオの前でこれらすべての不思議な業を行ったが、主はファラオの心をかたくなにされたので、彼はイスラエルの子らをその地から行かせなかった。

12

1 主はエジプトの地でモーセとアロンに語って言われた。

2 「この月はあなたがたにとって月々の始まりとなる。それはあなたがたにとって年の最初の月となる。」

3 イスラエルの全会衆に告げて言いなさい。『この月の十日に、彼らは父祖の家ごとに一匹の小羊、すなわち一家族につき一匹の小羊を取らなければならない。』

4 もし家族が小羊一匹には少なすぎるなら、その人は家の近くの隣人と共に、人数に応じて一匹を取らなければならない。あなたがたは、それぞれが食べる量に応じて、その小羊を数えなければならない。

5 あなたがたの小羊は傷のない、一歳の雄でなければならない。それは羊の群れ、あるいは山羊の群れから取らなければならない。

6 あなたがたはそれをこの月の十四日までに取り分けておき、イスラエルの会衆の全集会は夕暮れにそれを屠らなければならない。

7 彼らはその血のいくらかを取り、それを食べる家々の二つの門柱と鴨居に付けなければならない。

8 彼らはその夜、火で焼いたその肉を、種なしパンと一緒に食べなければならない。彼らはそれを苦菜と一緒に食べなければならない。

9 それを生で食べたり、水で煮たりしてはならない。頭も、足も、内臓も一緒に、火で焼かなければならない。

10 あなたがたは朝までそれを少しでも残しておいてはならない。朝まで残ったものは、火で焼き尽くさなければならない。

11 あなたがたは、腰に帯を締め、足に履き物を履き、手に杖を持ったまま、このようにしてそれを食べなければならない。あなたがたは急いでそれを食べなければならない。それは主の過越である。

12 わたしはその夜、エジプトの地を巡り、エジプトの地で人から動物に至るまで、すべての長子を打つからである。わたしはエジプトのすべての神々に裁きを下す。わたしは主である。

13 その血は、あなたがたがいる家々において、あなたがたのためのしるしとなる。わたしがその血を見る時、わたしはあなたがたを過ぎ越す。わたしがエジプトの地を打つ時、あなたがたを滅ぼす災いはあなたがたの上に臨まない。

14 この日はあなたがたにとって記念となる。あなたがたはこれを主への祭りとして祝わなければならない。あなたがたは代々にわたり、永遠の掟としてこれを祭りにしなければならない。

15 『七日間、あなたがたは種なしパンを食べなければならない。その初日には、あなたがたの家からパン種を取り除かなければならない。初日から七日

目までの間に種入りパンを食べる者は、その者がイスラエルから断たれるからである。

16 初日にはあなたがたに聖なる集会があり、七日目にも聖なる集会がなければならない。これらの日には、どんな仕事もしてはならない。ただ、各人が食べるもの、それだけはあなたがたが行ってもよい。

17 あなたがたは種なしパンの祭りを守らなければならない。まさにこの日に、わたしはあなたがたの軍団をエジプトの地から導き出したからである。それゆえ、あなたがたは代々にわたり、永遠の掟としてこの日を守らなければならない。

18 最初の月の十四日の夕暮れに、あなたがたは種なしパンを食べ始め、その月の二十一日の夕暮れまで食べなければならない。

19 七日間、あなたがたの家にパン種が見つかることはない。種が入ったものを食べる者は、寄留者であれ、その地で生まれた者であれ、その者がイスラエルの会衆から断たれるからである。

20 あなたがたは種が入ったものを一切食べてはならない。あなたがたのすべての住まいで、種なしパンを食べなければならない。』』

21 そこでモーセはイスラエルのすべての長老たちを呼び寄せて、彼らに言った。「あなたがたの家族のために小羊を選び取って、過越のいけにえを屠りなさい。

22 ヒソプの束を取り、それを鉢の中の血に浸し、鉢の中の血を鴨居と二つの門柱に付けなさい。あなたがたは誰一人、朝まで自分の家の戸口から出てはならない。

23 主がエジプト人を打つために通り過ぎられるからである。主が鴨居と二つの門柱にある血をご覧になる時、主はその戸口を過ぎ越され、滅ぼす者があ

あなたがたの家に¹入ってあなたがたを打つことをお許しにならない。

²⁴あなたがたはこれを、あなたとあなたの子らへの掟として、永遠に守らなければならない。

²⁵あなたがたが、主の約束通りに主が与えられる地に入った時、この儀式を守らなければならない。

²⁶そして、あなたがたの子どもたちがあなたがたに『この儀式にはどのような意味があるのですか』と尋ねる時、

²⁷あなたがたは『それは主の過越のいけにえである。主がエジプト人を打たれた時、エジプトにいたイスラエルの子らの家を過ぎ越され、私たちの家々を守ってくださったのだ』と言わなければならない。」

民は頭を下げて礼拝した。

²⁸イスラエルの子らは行って、そのようにした。主がモーセとアロンに命じられた通りに、彼らは行った。

²⁹真夜中に、主はエジプトの地のすべての長子を打たれた。それは王座に座るファラオの長子から、地下牢にいる捕虜の長子に至るまで、また家畜のすべての初子に及んだ。

³⁰ファラオは夜中に起き上がり、彼もそのすべての家臣も、すべてのエジプト人も起きた。エジプトには大きな叫びが起こった。死人のいない家は一つもなかったからである。

³¹彼は夜のうちにモーセとアロンを呼び寄せて言った。「起き上がり、私の民の中から出て行け。おまえたちもイスラエルの子らもだ。行って、おまえたちが言ったように主に仕えよ。

³²おまえたちが言ったように、羊の群れも牛の群れも連れて去れ。そして私のことも祝福してくれ。」

33 エジプト人は民を急き立てて、大急ぎでその地から送り出そうとした。「私たちは皆、死んでしまう」と彼らが言ったからである。

34 民はパン種が入る前のパン生地を取り、こね鉢を衣服に包んで肩に担いだ。

35 イスラエルの子らはモーセの言葉通りに行い、エジプト人から銀の飾り、金の飾り、衣服を求めた。

36 主が、民がエジプト人の目に好意を得るようにされたので、彼らは民の求めるものを与えた。こうして彼らはエジプト人から奪い取った。

37 イスラエルの子らはラメセスからスコテへと旅立った。子どもたちを除いて、徒歩の男たちは約六十万人であった。

38 多くの入り混じった群衆も彼らと共に上り、羊の群れ、牛の群れ、さらに非常に多くの家畜も共に行った。

39 彼らはエジプトから持ち出したパン生地で、種なしの菓子焼いた。エジプトから追い出され、待つことができず、また自分たちのための食料も準備していなかったため、それにはパン種が入っていなかったからである。

40 イスラエルの子らがエジプトに住んでいた期間は四百三十年であった。

41 四百三十年が終わったまさにその日に、主のすべての軍団はエジプトの地から出て行った。

42 それは、彼らをエジプトの地から導き出された主のために、大いに守られるべき夜である。この夜は、イスラエルのすべての子らが代々にわたり大いに守るべき主の夜である。

43 主はモーセとアロンに言われた。「これが超越の掟である。外国人は誰もこれを食べてはならない。

44 しかし、金で買われた人の奴隷はみな、あなたが彼に割礼を施したなら、これを食することができる。

45 滞在している外国人や雇い人は、これを食べてはならない。

46 それは一つの家の中で食べなければならぬ。あなたはその肉のいかなる部分も、家の外に持ち出してはならない。その骨を一つも折ってはならない。

47 イスラエルの全会衆がこれを守らなければならない。

48 異国人が寄留者としてあなたと共に住んでおり、主に過越を守りたいと願うなら、彼のすべての男子に割礼を受けさせなさい。そうして初めて、彼は近づいてこれを守ることができる。彼はその地で生まれた者のようになる。しかし、割礼を受けていない者は誰もこれを食べてはならない。

49 家で生まれた者にも、あなたがたの間に寄留する異国人にも、一つの同じ律法が適用される。」

50 イスラエルの子らは皆、そのようにした。主がモーセとアロンに命じられた通りに彼らは行った。

51 まさにその日、主はイスラエルの子らをその軍団ごとにエジプトの地から導き出された。

13

1 主はモーセに言われた。

2 「イスラエルの子らのうち、人でも動物でも、胎を開く初子はすべて、わたしのために聖別しなさい。それはわたしのものである。」

3 モーセは民に言った。「あなたがたがエジプト、奴隷の家から出て来たこの日を記念しなさい。主が力強い手であなたがたをそこから導き出されたからである。種入りパンを食べてはならない。

4 あなたがたは今日、アビブの月に旅立った。

5 主が、カナン人、ヘト人、アモリ人、ヒビ人、エブス人の地、すなわちあなたの父祖たちに与える
と誓った、乳と蜜の流れる地にあなたを導き入れる
時、あなたはこの月にこの儀式を守らなければならない。

6 七日間、種なしパンを食べなければならない。
七日目には主への祭りがある。

7 種なしパンは七日間食べなければならない。種
入りパンがあなたのところに見られてはならない。
また、あなたのすべての領土で、パン種があな
たのところに見られてはならない。

8 あなたはその日に自分の子に説明して言いなさい。
『これは、私がエジプトか
ら出て来た時、主が私のためにしてくださったこと
のためである。』

9 これはあなたの手のしるし、また目の間の記
念としてあなたのところにある。それは主の律法が
あなたの口にあるようにするためである。主が力
強い手で、あなたをエジプトから導き出されたから
である。

10 それゆえ、あなたはこの掟を、その定められ
た時に、年ごとに守らなければならない。

11 主があなたとあなたの父祖たちに誓われたよう
に、あなたをカナン人の地に導き入れ、そこをあなた
に与えられる時、

12 あなたは胎を開くすべてのものを主のため
に取り分けなければならない。あなたの家畜か
ら生まれるすべての初子、すなわち雄は、主のもの
である。

13 ロバの初子はすべて、小羊をもってあがなわな
なければならない。あがなわないなら、その首を折ら
なければならない。また、あなたの子らのうち、
人の初子はすべてあがなわなければならない。

14 後になってあなたの子が『これは何ですか』と尋ねるなら、あなたは彼に言いなさい。
『主は力強い手で、奴隷の家であるエジプトから私たちを導き出された。

15 ファラオが頑なになって私たちを行かせるのを拒んだ時、主はエジプトの地で、人の初子から家畜の初子に至るまで、すべての初子を殺された。それゆえ、私は胎を開くすべての雄の初子を主にいけにえとして献げ、自分の息子たちのうち、人の初子はすべてあがなっている。』

16 これはあなたの手のしるし、また目の間の記章としてあなたのところにある。主が力強い手で、私たちをエジプトから導き出されたからである。」

17 ファラオが民を去らせた時、神は彼らをペリシテ人の地の道には導かなかった。それは近い道であったが、神は「民が戦いを見て心を変え、エジプトに帰るかもしれない」と言われたからである。

18 神は民を、荒野の道を通して紅海の方へと回り道させた。イスラエルの子らはエジプトの地から武装して上った。

19 モーセはヨセフの骨を携えていた。ヨセフがイスラエルの子らに「神は必ずあなたがたを顧みられる。その時、私の骨をここから携えて上りなさい」と言って、堅く誓わせたからである。

20 彼らはスコテを出発し、荒野の端にあるエタムに宿営した。

21 主は、昼は雲の柱で彼らを導き、夜は火の柱で彼らを照らして、彼らを昼夜とも進ませるために、彼らの前を進まれた。

22 昼は雲の柱、夜は火の柱が、民の前から離れることはなかった。

14

1 主はモーセに言われた。

2 「イスラエルの子らに、引き返して、ミグドルと海の間にあるピハヒロテの前、バアル・ツェフォンの前に宿営するように言いなさい。あなたがたはそれに向かい合って、海沿いに宿営しなければならない。

3 ファラオはイスラエルの子らについて、『彼らはあの地で迷っており、荒野が彼らを閉じ込めた』と言うであろう。

4 わたしはファラオの心をかたくなにし、彼が彼らを追いかけて来るようにする。わたしはファラオとそのすべての軍勢によって誉れを得る。エジプト人は、わたしが主であることを知るであろう。」 彼らはそのようにした。

5 民が逃亡したことがエジプトの王に告げられると、ファラオとその家臣たちは民に対して心を変え、彼らは言った。「私たちは何とすることをしたのか。イスラエルを私たちに仕えることから解放して行かせてしまった。」

6 彼は戦車を整え、自分の軍勢を連れて行った。

7 彼は選りすぐりの戦車六百台、およびエジプトのすべての戦車、それらすべての上の指揮官を連れて行った。

8 主はエジプトの王ファラオの心をかたくなにされたので、彼はイスラエルの子らを追跡した。イスラエルの子らは高く手を上げて出て行った*。

9 エジプト人は彼らを追跡した。ファラオのすべての馬、戦車、騎兵、軍勢が、海沿いのピハヒロテのそば、バアル・ツェフォンの前で宿営していた彼らに追いついた。

* 14:8 14:8 または「反抗的に」。

10 ファラオが近づいて来た時、イスラエルの子らは目を上げた。見よ、エジプト人が彼らの後ろから進んで来る。彼らはひどく恐れ、イスラエルの子らは主に叫んだ。

11 彼らはモーセに言った。「エジプトに墓がないからといって、あなたは私たちを荒野で死なせるために連れて来たのですか。私たちをエジプトから連れ出して、あなたは私たちに何ということをしたのですか。

12 私たちがエジプトであなたに言った言葉は、これではありませんでしたか。『私たちを放っておいて、エジプト人に仕えさせなさい』と。エジプト人に仕える方が、荒野で死ぬよりも私たちに良かったのです。」

13 モーセは民に言った。「恐れてはならない。しっかりと立ち、今日あなたがたのために行われる主の救いを見なさい。あなたがたが今日見ているエジプト人を、二度と永遠に見ることはないであろう。

14 主があなたがたのために戦われる。あなたがたは静かにしていなさい。」

15 主はモーセに言われた。「なぜわたしに叫ぶのか。イスラエルの子らに前進するように言いなさい。

16 あなたは杖を上げ、手を海の上に向けて伸ばし、海を分けなさい。イスラエルの子らは海の真ん中を乾いた地として通るであろう。

17 見よ、わたし自身がエジプト人の心をかたくなにするので、彼らはその後を追って入って行く。わたしはファラオとそのすべての軍勢、その戦車、その騎兵によって誉れを得る。

18 わたしがファラオとその戦車、騎兵によって誉れを得る時、エジプト人はわたしが主であることを知るであろう。」

19 イスラエルの陣営の前を進んでいた神の使いは移動し、彼らの後ろに行った。雲の柱も彼らの前を離れ、彼らの後ろに立った。

20 それはエジプトの陣営とイスラエルの陣営の間に来た。そこには雲と闇があったが、夜を照らした。夜の間、一方は他方に近づかなかった。

21 モーセが手を海の上に向けて伸ばすと、主は一晚中、強い東風で海を後退させ、海を乾いた地とし、水は分かれた。

22 イスラエルの子らは海の真ん中を乾いた地として通り、水は彼らの右と左で壁となった。

23 エジプト人は追跡し、ファラオのすべての馬、戦車、騎兵が彼らの後を追って海の中に入って来た。

24 朝の見張り時に、主は火と雲の柱の中からエジプト人の軍勢を見下ろし、エジプト人の軍勢を混乱に陥れられた。

25 主は彼らの戦車の車輪を外し、それを重くして進みにくくされた。エジプト人は言った。「イスラエルの前から逃げよう。主が彼らのためにエジプト人と戦っておられるからだ。」

26 主はモーセに言われた。「手を海の上に向けて伸ばし、水がエジプト人、戦車、騎兵の上に返るようにしなさい。」

27 モーセが手を海の上に向けて伸ばすと、朝方、海は元の勢いに戻った。エジプト人はそれに向かって逃げたが、主はエジプト人を海の真ん中で打ち倒された。

28 水は戻り、彼らの後を追って海に入ったファラオの全軍勢の戦車と騎兵を覆った。一人も残らなかった。

29 しかしイスラエルの子らは海の真ん中を乾い

た地として歩いた。水は彼らの右と左で壁となった。

30 こうして、主はその日、イスラエルをエジプト人の手から救われた。イスラエルは海辺にエジプト人の死体を見た。

31 イスラエルは、主がエジプト人に行われた大いなる御業を見た。民は主を恐れ、主とそのしもべモーセを信じた。

15

1 その時、モーセとイスラエルの子らは、主に向かってこの歌を歌った。彼らは言った。

「私は主に歌う。主は高く勝ち誇られたから。馬と乗り手を海に投げ込まれた。

2 主は私の力、私の歌、私の救いとなられた。この方は私の神。私はこの方を賛美する。私の父の神。私はこの方をあがめる。

3 主は戦いの人。主はその名。

4 主はファラオの戦車と軍勢を海に投げ込まれた。

その選りすぐりの指揮官たちは紅海に沈んだ。

5 大水が彼らを覆った。彼らは深みに石のように沈んだ。

6 主よ、あなたの右の手は力において栄光に輝く。

主よ、あなたの右の手は敵を打ち砕く。

7 あなたの偉大な威厳によって、あなたはあなたに逆らい立つ者たちを打ち倒される。

あなたは憤りを放ち、それは彼らをわらのように焼き尽くす。

8 あなたの鼻の息によって水は積み上げられた。流れは堰のように立ち、深海は海の真ん中で固まった。

9 敵は言った。『追いかけてよ。追いつこう。
獲物を分けよう。私の欲望を彼らで満たそう。
私は剣を抜こう。私の手は彼らを滅ぼそう。』

10 あなたが風を吹きかけると、海は彼らを覆った。彼らは大水の中に鉛のように沈んだ。

11 主よ、神々の中にあなたのような方は誰がいるのでしょうか。

聖さにおいて栄光あり、賛美において恐るべき方、奇跡を行う方のような方は誰がいるのでしょうか。

12 あなたが右の手を伸ばされると、地は彼らを飲み込んだ。

13 あなたは贖い出した民を慈しみによって導き、あなたの聖なる住まいへ、あなたの力によって彼らを導かれる。

14 もろもろの民は聞いて震える。ペリシテの住民に苦しみが襲う。

15 エドムの長たちは驚き、モアブの力ある者たちには震えが及ぶ。カナンの住民は皆、溶け去る。

16 恐怖と恐れが彼らの上に臨む。あなたの腕の偉大さゆえに、彼らは石のように静まり返る。
主よ、あなたの民が通り過ぎるまで、あなたが買い取られたこの民が通り過ぎるまで。

17 あなたは彼らを導き入れ、あなたの嗣業の山に植えられる。

主よ、それはあなたが住もうためにご自分のために造られた場所。主よ、あなたの手が据えられた聖所。

18 主はとこしえに、永遠に王として治められる。』

19 ファラオの馬が、戦車や騎兵と共に海に入った時、主は海の水を彼らの上に引き戻された。しか

しイスラエルの子らは海の真ん中を乾いた地として歩いた。

20 アロンの姉妹、女預言者ミリアムは手にタンバリンを取り、女たちは皆、タンバリンを手に踊りながら彼女の後について出て来た。

21 ミリアムは彼らに応えて歌った。

「主に歌え。主は高く勝ち誇られた。
馬と乗り手を海に投げ込まれたから。」

22 モーセはイスラエルを紅海から進ませた。彼らはシュルの荒野に出て行き、荒野で三日間旅をしたが、水を見つけられなかった。

23 彼らがマラに着いた時、マラの水は苦くて飲むことができなかった。そのためその場所はマラ*と呼ばれた。

24 民はモーセにつぶやいて言った。「私たちは何を飲めばよいのか。」

25 モーセが主に叫ぶと、主は彼に一本の木を示された。彼がそれを水に投げ入れると、水は甘くなった。そこで主は彼らのために掬と定めを設け、そこで彼らを試みられた。

26 そして言われた。「もしあなたが、あなたの神、主の声に注意深く聞き従い、主の目に正しいことを行い、その命令に耳を傾け、すべての掬を守るなら、わたしはエジプト人に下した病を一つもあなたに下さない。わたしはあなたを癒やす主であるから。」

27 彼らはエリムに着いた。そこには十二の泉と七十本のなつめやしの木があった。彼らはそこで水辺に宿営した。

* 15:23 15:23 「マラ」は「苦い」を意味する。

16

1 彼らはエリムを出発した。イスラエルの子らの全会衆はエリムとシナイの間のシン荒野に来た。それはエジプトの地から出て来た後、第二の月の十五日であった。

2 イスラエルの子らの全会衆は、荒野でモーセとアロンにつぶやいた。

3 イスラエルの子らは彼らに言った。「私たちはエジプトの地で、肉の鍋の傍らに座り、パンを腹いっぱい食べていた時に、主の手によって死んでいればよかった。あなたがたは、この全集会を飢え死にさせるために、私たちをこの荒野に連れ出したのだ。」

4 主はモーセに言われた。「見よ、わたしはあなたがたのために天からパンを降らせる。民は出て行って、日ごとに一日の分を集めなければならない。わたしは彼らがわたしの律法に歩むかどうかを試みる。」

5 六日目には、彼らが持ち帰ったものを用意すると、それは毎日集める分の二倍となる。」

6 モーセとアロンはイスラエルのすべての子らに言った。「夕方になると、あなたがたはエジプトの地からあなたがたを導き出されたのが主であることを知る。」

7 朝になると、あなたがたは主の栄光を見る。主に対するあなたがたのつぶやきを、主が聞かれるからである。私たちは何者なのか。あなたがたが私たちに対してつぶやくとは。」

8 モーセは言った。「主は夕方には食べる肉を、朝には満ち足りるほどのパンをあなたがたに与えてくださる。主に対してあなたがたがつぶやいているそのつぶやきを、主が聞かれるからである。私たち

は**何者**なのか。あなたがたの**つぶやき**は**私たち**に対してではなく、**主**に対してなのだ。」

9 モーセはアロンに言った。「イスラエルの子らの**全会衆**に言いなさい。『**主の前**に近づきなさい。**主**があなたがたの**つぶやき**を聞かれたからである。』」

10 アロンがイスラエルの子らの**全会衆**に語っていると、**彼ら**は**荒野**の方を見た。すると見よ、**主の栄光**が**雲**の中に現れた。

11 **主**はモーセに言われた。

12 「わたしはイスラエルの子らの**つぶやき**を聞いた。**彼ら**に語って言え。『**夕方**になると、あなたがたは**肉**を食べ、**朝**には**パン**で**満ち足り**る。そうすれば、わたしがあなたがたの**神**、**主**であることを知るであろう。』」

13 **夕方**になると、**うずら**が**飛んで来て陣営**を覆った。**朝**になると、**陣営の周囲**に**露**が降りていた。

14 降りていた**露**が**上がる**ると、**見よ**、**荒野の面**に、**地の上の霜**のような、**小さく丸いもの**があった。

15 イスラエルの子らはそれを見ると、**互い**に言った。「これは**何**だろう。」**彼ら**はそれが**何**であるかを知らなかったからである。モーセは**彼ら**に言った。「これは**主**があなたがたに**食べる**ために与えられた**パン**である。」

16 **主**が**命じられた**ことはこうである。『**各人**は**食べる分**だけ、**一人**につき**一オメル*****ずつ**、**自分の天幕**にいる**人数**に応じて**集め**なさい。』」

17 イスラエルの子らはそのようにした。**あ**る**者**は**多く**、ある**者**は**少なく集め**た。

18 **彼ら**が**オメル**で**量**ると、**多く集めた者**も**余ら**ず、**少なく集めた者**も**不足**しなかった。**各人**は**食べる分**だけ**集め**た。

* **16:16 16:16** 一オメルは約二・二リットルである。

19 モーセは彼らに言った。「だれも朝までそれを残してはならない。」

20 しかし彼らはモーセに聞き従わなかった。ある者たちが朝までそれを残しておく、虫がわき、臭くなった。モーセは彼らに怒った。

21 彼らは毎朝、各人が食べる分だけを集めた。日が熱くなると、それは溶けた。

22 六日目になると、彼らは二倍のパン、すなわち一人につき二オメルずつ集めた。会衆の長は皆来て、モーセに告げた。

23 モーセは彼らに言った。「これは主が語られたことである。『明日は厳粛な休み、主への聖なる安息である。焼きたいものは焼き、煮たいものは煮なさい。残ったものはすべて、明日の朝まで保管のために取っておきなさい。』」

24 彼らはモーセが命じた通り、朝までそれを取っておいたが、臭くもならず、虫もわかかなかった。

25 モーセは言った。「今日はそれを食べなさい。今日は主への安息である。今日、野でそれを見つけることはないであろう。

26 六日間はそれを集めなければならないが、七日目は安息である。その日には何も無い。」

27 七日目になると、民のうちのある者たちが集めに出て行ったが、何も見つからなかった。

28 主はモーセに言われた。「あなたがたはいつまで、わたしの戒めとわたしの律法を守ることを拒むのか。

29 見よ、主が安息をあなたがたに与えられたので、六日目には二日分のパンをあなたがたに与えられる。七日目には、各人は自分の場所に留まり、だれもその場所から出てはならない。」

30 こうして民は七日目に休んだ。

31 イスラエルの家はそれをマナ[†]と名付けた。それはコリアンダーの種のように白く、蜂蜜を入れた薄焼き菓子[‡]の味[‡]のようであった。

32 モーセは言った。「主が命じられたことはこれである。『一オメル分を保管しなさい。それはあなたがたの代々にわたるためである。それは、わたしがあなたがたをエジプトの地から導き出した時、荒野であなたがたに食べさせたパンを、彼らが見るためである。』」

33 モーセはアロンに言った。「壺を取り、その中に一オメル分のマナを入れ、それを主の前に置いて、あなたがたの代々にわたり保管しなさい。」

34 主がモーセに命じられた通り、アロンはそれを保管のためにあかしの前に置いた。

35 イスラエルの子らは、人が住む地に着くまで、四十年間マナを食べた。彼らはカナンの地の境に着くまでマナを食べた。

36 オメルはエファの十分の一である。[‡]

17

1 イスラエルの子らの全会衆は、主の命令に従い、シンの荒野から旅程ごとに旅立った。彼らはレフィディムで宿営したが、そこには民が飲む水がなかった。

2 それで民はモーセと争い、「私たちに飲む水を与えよ」と言った。モーセは彼らに言った。「なぜ私と争うのか。なぜ主を試みるのか。」

3 民はそこで水に渴いていた。民はモーセに対してつぶやいて言った。「なぜ私たちをエジプトか

[†] 16:31 16:31 「マナ」は「これは何か」を意味する。 [‡] 16:36 16:36 一エファは約二十二リットルである。

ら導き上ったのか。私や子どもたち、家畜を渴きで死なせるためか。」

4 モーセは主に叫んで言った。「私はこの民をどうすればよいのでしょうか。彼らは今にも私を石で打ち殺そうとしています。」

5 主はモーセに言われた。「民の前を進み、イスラエルの長老たちを連れて行きなさい。ナイル川を打ったあなたの杖を手にとって行きなさい。

6 見よ、わたしはホレブの岩の上で、あなたの前のそこに立つ。あなたはその岩を打たなければならない。そうすれば、そこから水が出て、民は飲むことができる。」モーセはイスラエルの長老たちの目の前でそのようにした。

7 彼はその場所の名前をマサ*、およびメリバ†と呼んだ。イスラエルの子らが争ったためであり、また彼らが「主は私たちのうちにおられるのか、おられないのか」と言って主を試みたからである。

8 その時アマレクが来て、レフィディムでイスラエルと戦った。

9 モーセはヨシュアに言った。「私たちのために男たちを選び、出て行ってアマレクと戦いなさい。明日、私は神の杖を手を持って、丘の頂に立つ。」

10 ヨシュアはモーセが言った通りにし、アマレクと戦った。モーセ、アロン、フルは丘の頂に上った。

11 モーセが手を上げている時はイスラエルが優勢になり、彼が手を下ろすとアマレクが優勢になった。

* 17:7 17:7 「マサ」は「試みる」という意味である。 † 17:7 17:7 「メリバ」は「争う」という意味である。

12 しかし、モーセの手が重くなったので、彼らは石を取って彼の下に置き、彼はその上に座った。アロンとフルは、一人はこちら側、もう一人はあちら側で彼の手を支えた。こうして彼の手は日が沈むまでしっかりと保たれた。

13 ヨシユアは剣の刃でアマレクとその民を打ち破った。

14 主はモーセに言われた。「これを記念として書物に書き記し、ヨシユアの耳に語り聞かせなさい。わたしは天の下からアマレクの記憶を完全に消し去るからである。」

15 モーセは祭壇を築き、その名前を「主は私の旗」[‡]と呼んだ。

16 彼は言った。「主は誓われた。主は代々にわたりアマレクと戦われる。」

18

1 ミディアン^oの祭司でモーセのしゅうとであるエテロは、神がモーセとご自分の民イスラエルのために行われたすべてのこと、主がイスラエルをエジプトから導き出されたことを聞いた。

2 モーセのしゅうとエテロは、送り返されていたモーセの妻チッポラと、

3 その二人の息子を連れて来た。一人の名前はゲルシヨム^{*}であった。モーセが「私は異国の地で寄留者として生きてきた」と言ったからである。

4 もう一人の名前はエリエゼル[†]であった。彼が「私の父の神は私の助けであり、ファラオ

[‡] 17:15 17:15 「主は私の旗」はヘブル語で「ヤハウエ・ニシ」である。

^{*} 18:3 18:3 「ゲルシヨム」はヘブル語の「そこにいる寄留者」という言葉に発音が似

[†] 18:4 18:4 「エリエゼル」は「私の神は助け」という意味である。

の剣から私を救い出してくださった」と言ったからである。

⁵ モーセのしゅうとエテロは、モーセの息子たちと妻を連れ、荒野で神の山に宿営しているモーセのところに来た。

⁶ 彼はモーセに言った。「あなたのしゅうとである私エテロが、あなたの妻と彼女の二人の息子と共にあなたのところに来た。」

⁷ モーセはしゅうとを迎えるために出て行き、身をかがめて彼に口づけした。彼らは互いの安否を尋ね合い、天幕に入った。

⁸ モーセはしゅうとに、主がイスラエルのためにファラオとエジプト人に行われたすべてのこと、途中で彼らに降りかかったすべての苦難、そして主が彼らをどのように救い出されたかを語った。

⁹ エテロは、主がイスラエルをエジプト人の手から救い出して彼らに行われたすべての良いことを喜んだ。

¹⁰ エテロは言った。「主はほめたたえられるべきである。主はあなたがたをエジプト人の手から、またファラオの手から救い出され、民をエジプト人の手の下から救い出された。」

¹¹ 私は今、主がすべての神々にまさって大いなる方であることを知った。彼らが民に対して高ぶって行ったその事においてである。」

¹² モーセのしゅうとエテロは全焼のいけにえと、神への犠牲を持って来た。アロンとイスラエルのすべての長老たちが来て、モーセのしゅうとと共に神の前でパンを食べた。

¹³ 翌日、モーセは民を裁くために座り、民は朝から夕方までモーセの周りに立っていた。

¹⁴ モーセのしゅうとは、彼が民のためにしているすべてのことを見て言った。「あなたが民のために

しているこの事は何ですか。なぜあなただけが一人で座り、民は皆、朝から夕方まであなたの周りに立っているのですか。」

15 モーセはしゅうとに言った。「民が神に尋ねるために私のところに来るからです。」

16 彼らに事柄がある時、彼らは私のところに来ます。私は一人とその隣人との間を裁き、神の掟と律法を知らせるのです。」

17 モーセのしゅうとは彼に言った。「あなたのしている事は良くありません。」

18 あなたも、あなたと一緒にいるこの民も、必ず疲れ果ててしまいます。この事はあなたには重すぎます。あなた一人でそれを行うことはできません。」

19 今、私の声に聞き従いなさい。私はあなたに助言を与えます。神があなたと共におられますように。あなたは神の前で民の代表となり、その事柄を神のところを持って行きなさい。」

20 あなたは彼らに掟と律法を教え、彼らが歩むべき道と、なすべき事を彼らに示しなさい。」

21 さらにあなたは、すべての民の中から、神を恐れる有能な人々、真実な人々、不当な利益を憎む人々を見つけ出し、彼らを千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長として民の上に立てなさい。」

22 彼らに常に民を裁かせなさい。すべての大きな事柄はあなたのところに持って来させ、すべての小さな事柄は彼ら自身で裁かせなさい。そうすれば、あなたには楽になり、彼らはあなたと重荷を分かち合うでしょう。」

23 もしあなたがこの事を行い、神もあなたにそう命じられるなら、あなたは耐えることができ、ま

たこの民も皆、平和に自分の場所に帰ることができ
るでしょう。」

24 そこでモーセはしゅうとの声に聞き従い、
彼が言った通りのことをすべて行った。

25 モーセは全イスラエルの中から有能な人々
を選び、彼らを民の頭、すなわち千人の長、百
人の長、五十人の長、十人の長とした。

26 彼らは常に民を裁いた。難しい事柄はモーセの
ところに持って来たが、小さな事柄はすべて彼ら自
身で裁いた。

27 モーセはしゅうとを送り出し、彼は自
分の地へ帰って行った。

19

1 イスラエルの子らがエジプトの地を出てか
ら三か月目、その同じ日に、彼らはシナイの荒
野に着いた。

2 彼らはレフィディムから旅立ち、シナイの荒
野に来て、荒野に宿営した。イスラエルはそこ
で山の前に宿営した。

3 モーセは神のもとへ上って行った。主は山か
ら彼を呼んで言われた。「ヤコブの家にこ
う言い、イスラエルの子らに告げなさい。

4 『あなたがたは、わたしがエジプト人に行った
こと、また、わたしがあなたがたを鷲の翼に乗せ
て、わたしののもとに連れて来たことを見た。

5 だから今、もしあなたがたがわたしの声に確か
に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがた
はすべての民の中からわたし自身の宝となる。全
地はわたしのものであるからだ。

6 あなたがたはわたしにとって、祭司の王
国、聖なる国民となる。』これが、あなたがイスラ
エルの子らに語るべき言葉である。」

7 モーセは来て、民の長老たちを呼び寄せ、主が彼に命じられたこれらすべての言葉を彼らの前に置いた。

8 民は皆一緒に答えて言った。「主が言われたことを、私たちはすべて行います。」モーセは民の言葉を主に持ち帰った。

9 主はモーセに言われた。「見よ、わたしは濃い雲の中であなたのところに行く。それは、わたしがあなたと語る時、民が聞き、あなたを永遠に信じるためである。」モーセは民の言葉を主に告げた。

10 主はモーセに言われた。「民のところに行き、今日と明日、彼らを聖別しなさい。彼らに衣服を洗わせ、

11 三日目に備えさせなさい。三日目に、主はすべての民の目の前でシナイ山に下られるからである。

12 あなたは民のために周囲に境界を設けて言いなさい。『山に上ったり、その境界に触れたりしないように気をつけなさい。山に触れる者はみな、必ず死刑に処せられる。

13 その者に手を触れてはならない。その者は必ず石で打たれるか、矢で射抜かれるからである。動物であれ人であれ、生かしておいてはならない。』角笛が長く鳴り響く時、彼らは山に近づいてよい。」

14 モーセは山から民のところを下り、民を聖別した。彼らは衣服を洗った。

15 彼は民に言った。「三日目に備えなさい。女に近づいてはならない。」

16 三日目の朝になると、雷と稲妻があり、濃い雲が山の上にあった。そして非常に大きな角笛の音がして、陣営にいたすべての民は震えた。

17 モーセは神に会うために、民を陣営から導き出し、彼らは山のふもとに立った。

18 シナイ山は全体が煙っていた。主が火の中でその上に下られたからである。その煙はかまどの煙のように立ち上り、山全体が激しく震えた。

19 角笛の音がますます大きくなった時、モーセは語り、神は声を出して彼に答えられた。

20 主はシナイ山の上、その山の頂に下られた。主はモーセを山の頂に呼ばれ、モーセは上って行った。

21 主はモーセに言われた。「下って行き、民が主を見るために押し破って来ないように警告しなさい。そうしなければ、多くの者が滅びるのである。」

22 また、主に近づく祭司たちも自らを聖別しなければならない。主が彼らに襲いかかられないためである。」

23 モーセは主に言った。「民はシナイ山に上ることはできません。あなたが私たちに『山の周囲に境界を設け、それを聖別しなさい』と言って警告されたからです。」

24 主は彼に言われた。「行きなさい。下って行き、アロンと一緒に上って来なさい。しかし、祭司たちや民には、主に上って来るために押し破らせてはならない。主が彼らに襲いかかられないためである。」

25 そこでモーセは民のところに下り、彼らに語った。

20

1 神はこれらすべての言葉を語って言われた。

2 「わたしはあなたの神、主である。わたしはあなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した。

3 あなたには、わたしの前にほかの神々があつてはならない。

4 あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、あるいは地の下の水の中にあるものの、いかなる形も造ってはならない。

5 あなたはそれらを拜んではならず、それらに仕えてはならない。あなたの神である主、わたしはねたむ神であるからだ。わたしを憎む者には、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼす。

6 しかし、わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には、千代にわたって慈しみを示す。

7 あなたの神、主の名をみだりに用いてはならない*。主は、ご自分の名をみだりに用いる者を罰せずにはおられないからである。

8 安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。

9 六日間働き、あなたのすべての仕事をしなければならぬ。

10 しかし七日目は、あなたの神、主への安息である。あなたも、息子も娘も、男奴隷も女奴隷も、家畜も、あなたの門の中にいる寄留者も、いかなる仕事もしてはならない。

11 主は六日間で天と地と海、またそれらの中のものすべてのもを造り、七日目に休まれたからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、これを聖なるものとされた。

12 あなたの父と母を敬え。それは、あなたの神、主があなたに与えようとしておられる地で、あなたの日々が長く続くためである。

13 殺人を犯してはならない。

14 姦淫してはならない。

15 盗んではならない。

* 20:7 20:7 または「あなたの神、主の名をむなしく取ってはならない」。

16 あなたの隣人に対して偽証してはならない。

17 あなたの隣人の家をむさぼってはならない。あなたの隣人の妻、彼の男奴隷、女奴隷、彼の牛、彼のろば、あるいはあなたの隣人のいかなるものもむさぼってはならない。」

18 すべての民は、雷、稲妻、角笛の音、そして煙る山を見た。民はそれを見ると震え、遠く離れて立った。

19 彼らはモーセに言った。「あなたご自身が私たちに語ってください。そうすれば私たちは聞き従います。しかし、神が私たちに語られないようにしてください。私たちが死んでしまわないためです。」

20 モーセは民に言った。「恐れてはならない。神が来られたのは、あなたがたを試みるためであり、あなたがたの前に神への恐れがあつて、あなたがたが罪を犯さないためである。」

21 民は遠く離れて立ち、モーセは神がおられる濃い暗闇に近づいて行った。

22 主はモーセに言われた。「あなたはイスラエルの子らにこう言いなさい。『あなたがたは、わたしが天からあなたがたと語ったことを自ら見た。』

23 あなたがたは、わたしと並べて銀の神々や金の神々を自分のために造ってはならない。決して造ってはならない。

24 わたしのために土の祭壇を造り、その上にあなたの全焼のいけにえ、和解のいけにえ、あなたの羊と牛を献げなさい。わたしがわたしの名を記すすべての場所で、わたしはあなたのところに来て、あなたを祝福する。

25 もしわたしのために石の祭壇を造るなら、切り石でそれを築いてはならない。あなたがそれに道具を当てるなら、それを汚すことになるからである。

26 また、階段によってわたしの祭壇に上ってはならない。あなたの裸がそこで露わにされないためである。』

21

1 「これらは、あなたが彼らの前に置くべき掟である。

2 あなたがヘブル人の奴隷を買う場合、彼は六年間仕え、七年目には無償で自由の身となって出て行く。

3 もし彼がひとりで来たなら、ひとりで出て行く。もし彼が妻帯者であれば、妻は彼と共に出て行く。

4 もし主人が彼に妻を与え、彼女が彼に息子や娘を産んだ場合、その妻と子どもたちは主人のものとなり、彼はひとりで出て行く。

5 しかし、もしその奴隷がはっきりと『私は主人と、妻と、子どもたちを愛している。自由の身となって出て行くことはしない』と言うなら、

6 主人は彼を神のもとに連れて行き、戸口か門柱に連れて行く。そして主人はきりで彼の耳を突き通し、彼は永遠に主人に仕える。

7 人が自分の娘を女奴隷として売る場合、彼女は男奴隷たちが出て行くようには出て行かない。

8 もし彼女が、自分を妻とした主人の気に入らない場合、主人は彼女をあがなわせなければならない。主人は彼女を裏切ったのであるから、彼女を外国の民に売る権利はない。

9 もし主人が彼女を自分の息子と結婚させるなら、彼女を娘として扱わなければならない。

10 もし主人が別の妻をめとる場合、彼女の食事、衣服、夫婦の権利を減らしてはならない。

11 もし主人が彼女にこれら三つのことをしないなら、彼女は金を払わずに自由の身となって出て行くことができる。

12 人を打って死なせた者は、必ず死刑に処せられる。

13 しかし、それが故意ではなく、神がそうなることをお許しになったのであれば、わたしは彼が逃げるための場所を指定する。

14 人が悪巧みをし、故意に隣人を襲って殺すなら、あなたは彼をわたしの祭壇からでも連れ出して死刑にしなければならない。

15 自分の父や母を打つ者は、必ず死刑に処せられる。

16 人を誘拐し、彼を売る者、あるいは彼を自分の手元に置いているのが見つかった者は、必ず死刑に処せられる。

17 自分の父や母をのろう者は、必ず死刑に処せられる。

18 男たちが争い、一方が他方を石かこぶしで打ち、その人が死なずに床に伏せ、

19 もし彼が再び起き上がり、杖をついて歩き回るなら、彼を打った者は無罪とされる。ただ、その休業の損失を償い、彼が完全に治るまでの治療費を負担しなければならない。

20 人が自分の男奴隷や女奴隷を杖で打ち、その者が彼の手の下で死んだ場合、彼は必ず罰せられる。

21 しかし、もしその者が一日か二日の後に起き上がるなら、彼は罰せられない。その奴隷は彼の財産だからである。

22 男たちが争い、身重の女を傷つけて早産させたが、他に害が及ばなかった場合、その女の夫が要求し、裁判官が認めるだけの罰金を必ず科せられる。

23 しかし、もし害が及んだなら、あなたは命には命を取り、

24 目には目、歯には歯、手には手、足には足、

25 やけどにはやけど、傷には傷、打ち身には打ち身を取らなければならない。

26 人が自分の男奴隷の目、あるいは女奴隷の目を打ってそれをつぶした場合、その目のゆえに彼を自由の身として去らせなければならない。

27 もし彼が男奴隷の歯、あるいは女奴隷の歯を打ち折った場合、その歯のゆえに彼を自由の身として去らせなければならない。

28 牛が男や女を角で突いて死なせた場合、その牛は必ず石で打ち殺され、その肉は食べてはならない。しかし牛の持ち主は責任を問われない。

29 しかし、もしその牛に以前から角で突く癖があり、その持ち主が警告されていたにもかかわらず、それをつないでおかず、それが男や女を殺したなら、その牛は石で打ち殺され、その持ち主も死刑に処せられる。

30 もし彼に身代金が課せられたなら、彼は自分の命のあがないとして、課せられたものをすべて支払わなければならない。

31 それが息子を突いた場合でも、娘を突いた場合でも、この定めに従って彼に行われる。

32 もし牛が男奴隷や女奴隷を突いた場合、その持ち主に銀三十シエケル*を与え、牛は石で打ち殺されなければならない。

33 人が穴を開けるか、あるいは穴を掘ってそれに覆いをせず、そこに牛やろばが落ちた場合、

* 21:32 21:32 —シエケルは約10グラム、すなわち約0.35オンスである。したがって三

34 穴の持ち主はそれを償わなければならない。
彼はお金をその持ち主に与え、死んだ動物は彼のものとなる。

35 ある人の牛が他の人の牛を傷つけ、それが死んだ場合、彼らは生きている牛を売り、その代金を分け合う。また、死んだ動物も分け合う。

36 あるいは、その牛に以前から角で突く癖があることが知られていたのに、持ち主がそれをつないでおかなかった場合、彼は必ず牛の代わりに牛を償い、死んだ動物は彼のものとなる。

22

1 「人が牛や羊を盗み、それを殺すか売った場合、彼は牛一頭の代わりに牛五頭を、羊一匹の代わりに羊四匹を償わなければならない。

2 もし泥棒が押し入るところを見つけられ、打たれて死んだ場合、彼について血を流した罪はない。

3 もし日が昇っていたなら、血を流した罪がある。彼は必ず償いをしなければならない。もし彼に何もなければ、彼はその盗みのために売られなければならない。

4 もし盗んだものが、牛であれ、ろばであれ、羊であれ、彼の手元に生きて見つかった場合、彼は二倍にして償わなければならない。

5 人が畑やぶどう園を食い荒らさせ、自分の家畜を放して別の人の畑で食べさせた場合、彼は自分の畑の最良のもの、また自分のぶどう園の最良のものから償いをしなければならない。

6 火が出て、いばらに燃え移り、麦の束、あるいは立ち穂、あるいは畑が焼き尽くされた場合、火をつけた者は必ず償いをしなければならない。

7 人が隣人にお金や物品を預けて保管させ、それがその人の家から盗まれた場合、もし泥棒が見つければ、彼は二倍にして償わなければならない。

8 もし泥棒が見つからなければ、その家の主人は神の前に進み出て、隣人の財産に手を出したかどうかを明らかにしなければならない。

9 牛、ろば、羊、衣服、またはいかなる紛失物についてでも、『これは私のものだ』と言って違反の事柄が起きた場合、双方の言い分は神の前に持ち出されなければならない。神が有罪と宣告した者は、隣人に二倍にして償わなければならない。

10 人が隣人に、ろば、牛、羊、あるいはいかなる動物でも預けて保管させ、それが死ぬか、傷つくか、あるいは誰も見ていないところで追い去られた場合、

11 彼が隣人の財産に手を出していないという主にかけた誓いが、彼ら二人の間になければならない。その持ち主はこれを受け入れ、彼は償いをする必要はない。

12 しかし、もしそれが彼から盗まれたのであれば、盗んだ者はその持ち主に償いをしなければならない。

13 もしそれが野獣に引き裂かれたのであれば、彼はそれを証拠として持って来なければならない。彼は引き裂かれたものを償う必要はない。

14 人が隣人から何かを借り、その持ち主と一緒にいない時にそれが傷つくか死んだ場合、彼は必ず償いをしなければならない。

15 もしその持ち主と一緒にいたなら、彼は償う必要はない。それが賃借りされたものであったなら、借り賃に含まれる。

16 人がまだ婚約していない処女をそそのかして彼女と寝た場合、彼は必ず結納金を払って彼女を自分の妻にしなければならない。

17 もし彼女の父が彼に彼女を与えることを固く拒むなら、彼は処女の結納金に応じたお金を支払わなければならない。

18 呪術を使う女を生かしておいてはならない。

19 動物と寝る者はみな、必ず死刑に処せられる。

20 主おひとりを除いて、他の神にいけにえを献げる者は、完全に滅ぼされなければならない。

21 あなたは寄留者を不当に扱ってはならず、しいたげてもならない。あなたがたはエジプトの地で寄留者だったからである。

22 あなたはどのようなやもめも、孤児も苦しめてはならない。

23 もしあなたが彼らを少しでも苦しめ、彼らが少しでもわたしに向かって叫ぶなら、わたしは必ず彼らの叫びを聞く。

24 そしてわたしの怒りは燃え上がり、わたしは剣であなたがたを殺す。あなたがたの妻はやもめとなり、あなたがたの子どもたちは孤児となるであろう。

25 もしあなたが、あなたと共にいるわたしの民の貧しい者にお金を貸すなら、彼に対して金貸しのようにしてはならない。彼から利息を取ってはならない。

26 もし隣人の上着を抵当に取るなら、日が沈む前に彼に返さなければならない。

27 それが彼にとって唯一の覆いであり、肌に着る上着だからである。彼は何を着て寝ればよいのか。彼がわたしに叫ぶ時、わたしは聞く。わたしは恵み深いからである。

28 神を冒瀆してはならない。また、あなたの民の指導者をのろってはならない。

29 あなたの収穫物と、あなたの搾り場からあふれ出るものの中から、ささげ物を遅らせてはならない。あなたの息子たちの長男をわたしに与えなければならぬ。

30 あなたの牛と羊についても同様にしなければならない。七日間は母親と共に置き、八日目それをわたしに与えなければならぬ。

31 あなたがたはわたしにとって聖なる人とならなければならない。それゆえ、野で獣に引き裂かれた肉を食べてはならない。それを犬に投げ与えなさい。

23

1 「あなたは偽りのうわさを広めてはならない。悪者に手を貸して、悪意ある証人となってはならない。

2 あなたは多数の者に従って悪を行ってはならない。また、裁判において多数の者に同調して証言し、正義を曲げてはならない。

3 あなたは貧しい人だからといって、その訴訟において不当にひいきにしてはならない。

4 あなたの敵の牛やろばが迷っているのに出会ったなら、必ずそれを彼のところに連れ戻さなければならない。

5 あなたを憎む者のろばが荷物の下敷きになって倒れているのを見た時、彼を見捨ててはならない。あなたは必ず彼と共にそれを助け起こさなければならない。

6 あなたは、あなたの貧しい民の訴訟において、正義を曲げてはならない。

7 偽りの告発から遠ざかり、罪のない者や正しい者を殺してはならない。わたしは悪者を義と認めないからである。

8 あなたは賄賂を受け取ってはならない。賄賂は目の見える者の目をくらませ、正しい者の言葉を曲げるからである。

9 あなたは寄留者をしいたげてはならない。あなたがたはエジプトの地で寄留者であったので、寄留者の心を知っているからである。

10 六年間、あなたは自分の土地に種をまき、その収穫を集めなければならない。

11 しかし七年目にはそれを休ませて、そのままにしておかなければならない。そうすれば、あなたの民の貧しい者が食べることができ、彼らが残したものを野の動物が食べることができる。あなたのぶどう園やオリーブ畑についても同じようにしなければならない。

12 六日間、あなたは自分の仕事をしなければならない。しかし七日目には休まなければならない。それはあなたの牛とろばが休み、あなたの女奴隷の息子と寄留者が元気を回復するためである。

13 わたしがあなたがたに言ったすべてのことに注意を払いなさい。他の神々の名を呼び求めてはならない。それがあなたの口から聞かれるようにしてはならない。

14 年に三回、わたしのために祭りを守らなければならない。

15 あなたは種なしパンの祭りを守らなければならない。わたしがあなたに命じたように、アビブの月の定められた時に、七日間種なしパンを食べなければならない（その月にあなたがエジプトから出て来たからである）。誰も手ぶらでわたしの前に現れてはならない。

16 また、あなたが畑にまいた労働の初穂の祭りである刈り入れの祭り、さらに年の終わりに畑からあなたの労働の実を集める取り入れの祭りを守らなければならない。

17 年に三回、あなたの男子は皆、主なる神の前に現れなければならない。

18 あなたはわたしのいけにえの血を、種入りパンと共に献げてはならない。わたしの祭りの脂肪を、朝まで夜通し残しておいてはならない。

19 あなたの土地の最初の初穂を、あなたの神、主の家に持って来なければならない。子山羊をその母の乳で煮てはならない。

20 見よ、わたしはあなたの前に使いを遣わし、道中であなたを守り、わたしが備えた場所にあなただけを導き入れる。

21 彼に注意を払い、その声に従いなさい。彼に逆らってはならない。彼はあなたがたの背きを赦さないであろう。わたしの名が彼の内にあるからである。

22 しかし、もしあなたが確かに彼の声に従い、わたしが語るすべてのことを行うなら、わたしはあなたの敵の敵となり、あなたの仇の仇となる。

23 わたしの使いがあなたの前を行き、アモリ人、ヘト人、ペリジ人、カナン人、ヒビ人、エブス人のところにあなたを導き入れ、わたしは彼らを断ち切るからである。

24 あなたは彼らの神々にひれ伏してはならず、それらに仕えてはならない。また、彼らの行いにならなくてはならない。かえって、あなたは彼らを完全に打ち倒し、彼らの石の柱を打ち砕かなければならない。

25 あなたがたはあなたがたの神、主に仕えなければ

ばならない。そうすれば主はあなたのパンと水を祝福される。わたしはあなたの中から病気を取り除く。

26 あなたの地には流産する者も、不妊の者もいなくなる。わたしはあなたの日数を満たす。

27 わたしはあなたの前にわたしへの恐れを送り、あなたが赴くすべての民を混乱に陥れ、あなたのすべての敵があなたに背を向けて逃げるようにする。

28 わたしはあなたの前にスズメバチを送り、ヒビ人、カナン人、ヘト人をあなたの前から追い出させる。

29 わたしは一年で彼らをあなたの前から追い出すことはしない。地が荒れ果て、野の動物があなたに対して増えすぎないためである。

30 あなたがたが増え、その地を受け継ぐまで、わたしは少しずつ彼らをあなたの前から追い出す。

31 わたしはあなたの境界を、紅海からペリシテ人の海まで、また荒野から川までと定める。わたしはその地の住民をあなたの手にゆだね、あなたは彼らをあなたの前から追い出すからである。

32 あなたは彼らや彼らの神々と契約を結んではならない。

33 彼らをあなたの地に住ませてはならない。彼らがあるあなたに、わたしに対して罪を犯させないためである。もしあなたが彼らの神々に仕えるなら、それは必ずあなたにとって罨となる。」

24

1 主はモーセに言われた。「あなたは、アロン、ナダブ、アビフ、そしてイスラエルの長老七十人と共に、主のもとに上って来なさい。そして遠く離れて礼拝しなさい。

2 モーセだけが主に近づかなければならない。彼らは近づいてはならない。また、民は彼と一緒に上ってはならない。」

3 モーセは来て、主のすべての言葉とすべての掟を民に告げた。すべての民は声をそろえて答え、「主が語られたすべての言葉を私たちは行います」と言った。

4 モーセは主のすべての言葉を書き記した。彼は朝早く起き、山のふもとに祭壇と、イスラエルの十二部族のための十二の石の柱を築いた。

5 彼はイスラエルの子らの若者たちを遣わし、彼らは主に全焼のいけにえをささげ、和解のいけにえとして牛を屠った。

6 モーセは血の半分を取って鉢に入れ、残りの半分の血を祭壇に振りかけた。

7 彼は契約の書を取り、民が聞いている前でそれを読み上げた。彼らは言った。「主が語られたすべてのことを私たちは行い、聞き従います。」

8 モーセは血を取り、それを民に振りかけて言った。「見よ、これはこれらすべての言葉に関して、主があなたがたと結ばれた契約の血である。」

9 それからモーセ、アロン、ナダブ、アビフ、およびイスラエルの長老七十人は上って行った。

10 彼らはイスラエルの神を見た。その足の下はサファイア*の石を敷き詰めたかのようにであり、澄み切った空のようであった。

11 神はイスラエルの子らの尊い者たちに手を下されなかった。彼らは神を見、そして食べ、また飲んだ。

12 主はモーセに言われた。「山に上り、わたしのところに来て、そこにとどまりなさい。わたしは、

* 24:10 24:10 あるいは、ラピスラズリ。

彼らを教えるために、わたしが書き記した律法と命令の石の板をあなたに与える。」

13 モーセは従者ヨシュアと共に立ち上がり、モーセは神の山に上って行った。

14 彼は長老たちに言った。「私たちがあなたがたのところに再び戻って来るまで、ここで私たちを待っていてなさい。見よ、アロンとフルがあなたがたと一緒にいる。争い事がある者は誰でも、彼らのところに行きなさい。」

15 モーセは山に上り、雲が山を覆った。

16 主の栄光がシナイ山の上にとどまり、雲は六日間山を覆った。七日目に、主は雲の真ん中からモーセを呼ばれた。

17 主の栄光の姿は、イスラエルの子らの目には、山の頂にある焼き尽くす火のようであった。

18 モーセは雲の真ん中に入り、山に上って行った。モーセは四十日四十夜、山にいた。

25

1 主はモーセに語って言われた。

2 「イスラエルの子らに、わたしのためにささげ物を持って来るように言いなさい。心から喜んでささげるすべての人から、わたしのためのささげ物を受け取りなさい。

3 あなたがたが彼らから受け取るべきささげ物は、次の通りである。金、銀、青銅、

4 青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布、山羊の毛、

5 赤く染めた雄羊の皮、ジュゴンの皮*、アカシアの木、

6 灯火のための油、注ぎ油と香りのよい香のための香料、

* 25:5 25:5 あるいは、上質な革。

7 縞めのう、そしてエポデや胸当てにはめ込むための宝石である。

8 わたしが彼らの間に住むために、彼らにわたしのための聖所を造らせなさい。

9 わたしがあなたに示す幕屋の型、およびそのすべての器具の型に従って、あなたがたはそれを造らなければならない。

10 彼らはアカシアの木で箱を造らなければならない。その長さは二・五キュビト[†]、幅は一・五キュビト、高さは一・五キュビトとする。

11 あなたはそれに純金をかぶせなければならない。内側と外側にそれをかぶせ、その周りに金の飾り縁を造りなさい。

12 そのために四つの金の環を鑄造し、その四つの足に取り付けなさい。一方の側に二つの環、もう一方の側にも二つの環を取り付ける。

13 アカシアの木で横木を造り、それに金をかぶせなさい。

14 その横木を箱の側面の環に通し、それで箱を担げるようにしなさい。

15 横木は箱の環に挿したままにしておき、そこから外してはならない。

16 わたしがあなたに与えるあかしを、箱の中に納めなければならない。

17 純金で贖いの座を造りなさい。その長さは二・五キュビト、幅は一・五キュビトとする。

18 打ち出し細工の金で、二つのケルビムを造りなさい。贖いの座の両端にそれらを造りなさい。

19 一つのケルブを一方の端に、もう一つのケルブをもう一方の端に造りなさい。ケルビムを贖い

[†] 25:10 25:10 一キュビトは、大人の腕の中指の先から肘までの長さで、約18インチ、すなわち約45センチメートルである。

の座の両端に、座と一体にして造らなければならない。

20 ケルビムはその翼を上に向けて広げ、その翼で贖いの座を覆うようにし、互いに顔を向かい合わせる。ケルビムの顔は贖いの座の方に向けられなければならない。

21 その贖いの座を箱の上に置き、箱の中にはわたしがあなたに与えるあかしを納めなさい。

22 そこでわたしはあなたと会い、贖いの座の上から、すなわちあかしの箱の上にある二つのケルビムの間から、イスラエルの子らのためにあなたに命じるすべてのことを語る。

23 アカシアの木で机を造りなさい。その長さは二キュビト、幅は一キュビト、高さは一・五キュビトとする。

24 それに純金をかぶせ、その周りに金の飾り縁を造りなさい。

25 その周りに手の幅の枠を造り、その枠の周りにも金の飾り縁を造りなさい。

26 そのために四つの金の環を造り、四つの足にある四隅にその環を取り付けなさい。

27 机を担ぐ横木を通す場所として、環は枠の近くにななければならない。

28 アカシアの木で横木を造り、それに金をかぶせなさい。それで机が担がれるためである。

29 注ぎのさきげ物を注ぐための皿、さじ、水差し、鉢を造りなさい。それらは純金で造らなければならない。

30 常にわたしの前の机の上に、供えのパンを置きなさい。

31 純金で燭台を造りなさい。燭台は打ち出し細工で造らなければならない。その台座、支柱、杯、節、花は、それと一体でなければならない。

32 その側面からは六つの枝を出させる。すなわち、一方の側から燭台の三つの枝を出し、もう一方の側から燭台の三つの枝を出す。

33 一つの枝にはアーモンドの花のような三つの杯、節、花を造り、もう一つの枝にもアーモンドの花のような三つの杯、節、花を造る。燭台から出ている六つの枝をそのようにする。

34 燭台の支柱には、アーモンドの花のような四つの杯、節、花を造る。

35 燭台から出ている六つの枝のために、それと一体の二つの枝の下に一つの節、それと一体の他の二つの枝の下に一つの節、それと一体のさらに他の二つの枝の下に一つの節を造る。

36 それらの節と枝は燭台と一体とし、その全体を一つの純金の打ち出し細工としなさい。

37 燭台の七つのともしびを造りなさい。人々がそのともしびに火をともし、その前の空間を照らすようにする。

38 その芯切りばさみも芯取り皿も純金とする。

39 これらのすべての器具を含めて、一タラント[‡]の純金でこれを造らなければならない。

40 あなたが山で示された型通りにこれらを造るよ
うに、注意しなさい。

26

1 さらに、撚り糸で織った亜麻布、青色、紫色、緋色の糸で、ケルビムを織り出した十枚の幕で幕屋を造りなさい。それらは熟練した職人の細工として造らなければならない。

‡ 25:39 25:39 一タラントは約30キログラム、すなわち66ポンド、あるいは965トロイオ

² それぞれの幕の長さは二十八キュビト*、幅は四キュビトとする。すべての幕を同じ寸法にしなければならない。

³ 五枚の幕を互いにつなぎ合わせ、もう五枚の幕も互いにつなぎ合わせる。

⁴ つなぎ合わせた一方の幕の端に青い糸で輪を作り、もう一つにつなぎ合わせた幕の外側の端にも同じようにする。

⁵ 一方の幕に五十の輪を作り、もう一つにつなぎ合わせた幕の端にも五十の輪を作る。輪は互いに向かい合うようにする。

⁶ 五十の金の留め金を造り、その留め金で幕を互いにつなぎ合わせる。こうして幕屋は一つとなる。

⁷ 幕屋の上に掛ける天幕として、山羊の毛で幕を造りなさい。十一枚の幕を造らなければならない。

⁸ それぞれの幕の長さは三十キュビト、幅は四キュビトとする。十一枚の幕を同じ寸法にしなければならない。

⁹ 五枚の幕を一つにつなぎ合わせ、六枚の幕を一つにつなぎ合わせる。そして六枚目の幕を天幕の前面で折り返す。

¹⁰ つなぎ合わせた一方の外側の幕の端に五十の輪を作り、もう一つにつなぎ合わせた幕の外側の端にも五十の輪を作る。

¹¹ 五十の青銅の留め金を造り、その留め金を輪にはめ込んで、天幕を一つにつなぎ合わせる。

¹² 天幕の幕の余った垂れ下がった部分、すなわち余った半分の幕は、幕屋の背面に垂れ下がるようにする。

* 26:2 26:2 一キュビトは、大人の腕の中指の先から肘までの長さで、約18インチ、すなわち約45センチメートルである。

13 天幕の幕の長さ之余る部分は、一方の側で一キュビト、もう一方の側で一キュビト、幕屋の両側に垂れ下がるようにして、それを覆う。

14 天幕のために、赤く染めた雄羊の皮の覆いを造り、その上にジュゴンの皮の覆いを造りなさい。

15 幕屋のためにアカシアの木で板を造り、直立させなさい。

16 板の長さは十キュビト、それぞれの板の幅は一・五キュビトとする。

17 それぞれの板には、互いに合うように二つのほぞを造る。幕屋のすべての板をこのように造らなければならない。

18 南側に向かう幕屋のために二十枚の板を造りなさい。

19 その二十枚の板の下に四十の銀の台座を造る。すなわち、一枚の板の二つのほぞの下に二つの台座、もう一枚の板の二つのほぞの下にも二つの台座を置く。

20 幕屋のもう一方の側、すなわち北側にも二十枚の板を造り、

21 それらの四十の銀の台座を造る。すなわち、一枚の板の下に二つの台座、もう一枚の板の下にも二つの台座を置く。

22 幕屋の奥、すなわち西側のために六枚の板を造りなさい。

23 幕屋の奥の両隅のために二枚の板を造りなさい。

24 これらは下で二重になり、同じように頂部でも一つの環に向けて一つとなるようにする。これら二枚ともそのようにし、二つの隅のためのものとする。

25 八枚の板と、その銀の台座は十六の台座となる。一枚の板の下に二つの台座、もう一

枚の板の下にも二つの台座を置く。

26 アカシアの木で横木を造りなさい。幕屋の一方の側の板のために五本、

27 幕屋のもう一方の側の板のために五本の横木、そして幕屋の奥、すなわち西側の板のために五本の横木を造る。

28 板の真ん中を通る中央の横木は、端から端まで通るようにする。

29 板には金をかぶせ、横木を通す場所として金の環を造りなさい。横木にも金をかぶせなさい。

30 あなたが山で示された方法に従って幕屋を建てなさい。

31 青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布で垂れ幕を造りなさい。それにケルビムを熟練した職人の細工として織り出さなければならない。

32 金をかぶせたアカシアの木の四本の柱にそれを掛けなさい。その掛け釘は金とし、四つの銀の台座の上に立てる。

33 その垂れ幕を留め金の下に掛け、そこに、垂れ幕の内側にあかしの箱を運び入れなさい。垂れ幕はあなたがたのために聖所と至聖所とを分けるものとなる。

34 至聖所にあるあかしの箱の上に贖いの座を置きなさい。

35 垂れ幕の外側に机を置き、机の向かい側、すなわち幕屋の南側に燭台を置く。机は北側に置かなければならない。

36 天幕の入り口のために、青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布で、刺繍をする者の細工による幕を造りなさい。

37 その幕のためにアカシアの木で五本の柱を造り、それに金をかぶせる。そ

の掛け釘は金とする。柱のために五つの青銅の台座を鑄造しなさい。

27

1 アカシアの木で祭壇を造りなさい。長さは五キュビト*、幅は五キュビトとする。祭壇は四角形でなければならない。その高さは三キュビト†とする。

2 その四隅に角を造りなさい。その角は祭壇と一体でなければならない。それに青銅をかぶせなさい。

3 灰を取り除くための壺、十能、鉢、肉刺し、火皿を造りなさい。その器具はすべて青銅で造らなければならない。

4 そのために青銅の網目細工の格子を造りなさい。その格子の四隅に四つの青銅の環を造る。

5 それを祭壇の出っ張りの下、すなわち下部に取り付け、格子が祭壇の半分の高さに届くようにする。

6 祭壇のために横木を、すなわちアカシアの木で横木を造り、それに青銅をかぶせなさい。

7 横木は環に通される。祭壇を担ぐ時、横木は祭壇の両側にあるようにする。

8 祭壇は板で空洞に造りなさい。山で示された通りに、彼らはそれを造らなければならない。

9 幕屋の庭を造りなさい。南側に向かう片側のために、撚り糸で織った亜麻布の庭の幕を設けなさい。長さは百キュビトとする。

10 その二十本の柱と二十の台座は青銅とする。柱の掛け釘と帯飾りは銀とする。

* 27:1 27:1 一キュビトは、大人の腕の中指の先から肘までの長さで、約18インチ、すなわち約45センチメートルである。

† 27:1 27:1 祭壇は約2.3×2.3×1.4メートル、あるいは約7.5×7.5×4.5フィートであった。

11 北側についても同様に、その長さに沿って百キュビトの幕を設ける。その二十本の柱と二十の台座は青銅とする。柱の掛け釘と帯飾りは銀とする。

12 西側の庭の幅については、五十キュビトの幕を設ける。その柱は十本、台座は十とする。

13 東に向かう東側の庭の幅は五十キュビトとする。

14 入り口の一方の側の幕は十五キュビト、その柱は三本、台座は三つとする。

15 もう一方の側の幕も十五キュビト、その柱は三本、台座は三つとする。

16 庭の入り口のためには、青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布で、刺繍をする者の細工による二十キュビトの幕を設ける。その柱は四本、台座は四つとする。

17 庭の周囲のすべての柱には銀の帯飾りを付け、その掛け釘は銀、台座は青銅とする。

18 庭の長さは百キュビト、幅は全体にわたって五十キュビト、高さは五キュビトとする。幕は撚り糸で織った亜麻布とし、その台座は青銅とする。

19 すべての奉仕に用いる幕屋のすべての器具、そのすべての釘、および庭のすべての釘は青銅としなさい。

20 イスラエルの子らに命じて、ともしびのために、ついて搾った純粋なオリーブ油をあなたのところを持って来させ、ともしびが常にともっているようにしなさい。

21 会見の天幕の中、契約の前にある垂れ幕の外側で、アロンとその子らは夕方から朝まで、主の前でこれを整えなければならない。これはイスラエルの子らのために、彼らの代々にわたる永遠の掟である。

28

1 あなたの兄弟アロンと、その子らを彼と共に、イスラエルの子らの中からあなたの近くに呼び寄せ、祭司としてわたしに仕えさせなさい。すなわち、アロンと、アロンの子らであるナダブ、アビフ、エルアザル、イタマルである。

2 栄光と美しさのために、あなたの兄弟アロンのために聖なる衣服を造りなさい。

3 わたしが知恵の霊で満たした、心に知恵のあるすべての人々に語りなさい。彼らがアロンを聖別するために衣服を造り、彼が祭司としてわたしに仕えることができるようにするためである。

4 彼らが造るべき衣服は次の通りである。胸当て、エポデ、上着、織り模様の長服、ターバン、飾り帯である。あなたの兄弟アロンとその子らが、祭司としてわたしに仕えることができるように、彼らは聖なる衣服を造らなければならない。

5 彼らは金、青色、紫色、緋色の糸、および亜麻布を用いなければならない。

6 熟練した職人の細工として、金、青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布でエポデを造らなければならない。

7 それが一つにつながるように、両端につなぎ合わせた二つの肩ひもを付けなければならない。

8 エポデの上にある巧みに織られた帯は、同じような細工で、それと一体にしなさい。すなわち、金、青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布で作る。

9 二つの縞めのうを取り、その上にイスラエルの子らの名前を彫りなさい。

10 一方の石に彼らの名前を六つ、もう一方の石に残りの六つの名前を、生まれた順に彫りなさい。

11 石の彫刻師の細工のように、印章を彫るようにして、イスラエルの子らの名前に従って二つの石を彫りなさい。それらを金の枠にはめ込んで造らなければならない。

12 その二つの石をエポデの肩ひもに付け、イスラエルの子らのための記念の石としなさい。アロンは彼らの名前を主の前の両肩に負い、記念とする。

13 金の枠を造りなさい。

14 純金で二つの鎖を造りなさい。撚り合わせた編んだひものように造らなければならない。その編んだ鎖を枠に取り付けなさい。

15 熟練した職人の細工として、さばきの胸当てを造りなさい。エポデの細工と同じように造らなければならない。金、青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布で造らなければならない。

16 それは四角形で、二つ折りにしなければならない。長さは一スパン*、幅も一スパンとする。

17 その中に石をはめ込み、四列の石を並べなさい。第一列はルビー、トパーズ、緑柱石の列としなさい。

18 第二列はトルコ石、サファイア†、エメラルドとする。

19 第三列はヒヤシンス石、めのう、紫水晶とする。

20 第四列はクリソライト、縞めのう、碧玉とする。これらは金の枠にはめ込まれなければならない。

21 石はイスラエルの子らの名前に従って十二とし、彼らの名前に従うものとする。印章を彫るよう

* 28:16 28:16 一スパンは、大人の手が広げられた時の親指の先から小指の先までの長

† 28:18 28:18 あるいは、ラピスラズリ。

に、十二部族のために、それぞれ名前に従って彫らなければならない。

22 胸当ての上に、純金で燃り合わせた編んだひものような鎖を造りなさい。

23 胸当ての上に二つの金の環を造り、その二つの環を胸当ての両端に取り付けなさい。

24 その二つの金の編んだ鎖を、胸当ての端にある二つの環に通しなさい。

25 二つの編んだ鎖の他の二つの端を、二つの枠に取り付け、それをエポデの前面の肩ひもに取り付けなさい。

26 二つの金の環を造り、胸当ての両端、すなわち内側のエポデに向いている側の縁にそれを取り付けなさい。

27 二つの金の環を造り、それをエポデの二つの肩ひもの下部、前面のつなぎ目の近く、エポデの巧みに織られた帯の上に取り付けなさい。

28 胸当ての環とエポデの環を青いひもで結びつけ、胸当てがエポデの巧みに織られた帯の上であり、エポデからずれないようにしなければならない。

29 アロンが聖所に入る時、主の前で常に記念とするために、さばきの胸当てにあるイスラエルの子らの名前を心の上に負わなければならない。

30 さばきの胸当ての中に、ウリムとトンミムを入れなさい。アロンが主の前に進み出る時、それらがアロンの心の上にあるようにする。アロンは常に主の前で、イスラエルの子らのさばきを心の上に負わなければならない。

31 エポデの上着を、すべて青色で造りなさい。

32 その真ん中には頭を通す穴を空ける。その穴の周囲には、よろいの穴のように、それが裂けないように織物の縁取りを設けなければならない。

33 その裾の周囲には、青色、紫色、緋色の糸でざくろを造り、その裾の周囲に置き、それらの間に金の鈴を配置しなさい。

34 上着の裾の周囲に、金の鈴とざくろ、金の鈴とざくろを交互に配置する。

35 アロンは仕える時にそれを着なければならぬ。彼が主の前の聖所に入る時、またそこから出る時にその音が聞こえ、彼が死なないためである。

36 純金の札を造り、印章を彫るように、その上に『主に聖なるもの』と彫りなさい。

37 それを青いひもに付け、飾り帯の上にくるようにしなさい。それは飾り帯の前面になければならぬ。

38 それはアロンの額の上になければならぬ。アロンは、イスラエルの子らがすべての聖なるささげ物として聖別する、聖なる物に関わる咎を負う。それが常に彼の額の上にあることで、彼らは主の前に受け入れられる。

39 亜麻布で長服を織りなさい。亜麻布でターバンを造りなさい。刺繍をする者の細工による飾り帯を造りなさい。

40 アロンの子らのために長服を造りなさい。彼らのために飾り帯を造りなさい。栄光と美しさのために、彼らのために頭帯を造りなさい。

41 あなたの兄弟アロンと、彼と共にいるその子らにこれらを着せ、彼らに油を注ぎ、彼らを任職し、聖別して、祭司としてわたしに仕えさせなさい。

42 裸の肉を覆うために、彼らに亜麻布のももひきを造りなさい。それは腰から太ももにまで届くものでなければならぬ。

43 アロンとその子らが会見の天幕に入る時、あるいは聖所で仕えるために祭壇に近づく時、彼らはこれを身に着けなければならぬ。彼らが咎を負つ

て死なないためである。これは、彼と彼の後の子孫に対する永遠の掟である。

29

1 「彼らが祭司としてわたしに仕えるために、彼らを聖なるものとするため、あなたが彼らになすべき事は次の通りである。若い雄牛一頭と、傷のない雄羊二匹を取りなさい。

2 種なしパン、油を混ぜた種なしの菓子、油を塗った種なしの薄焼きパンを取りなさい。あなたは上質な小麦粉でそれらを造らなければならない。

3 それらを一つの籠に入れ、その籠に入れて、雄牛と二匹の雄羊と共に持って来なさい。

4 あなたはアロンとその子らを会見の天幕の入り口に連れて行き、水で彼らを洗わなければならない。

5 衣服を取り、アロンに長服、エポデの上着、エポデ、胸当てを着せ、エポデの巧みに織られた帯を締めなさい。

6 彼の頭にターバンをかぶせ、ターバンの上に聖なる冠を置きなさい。

7 そして注ぎ油を取り、彼の頭に注いで、彼に油を注ぎなさい。

8 息子たちを連れて来て、彼らに長服を着せなさい。

9 アロンとその子らに飾り帯を締め、彼らに頭帯を結びつけなさい。永遠の掟によって、祭司の職は彼らのものとなる。あなたはアロンとその子らを任職しなければならない。

10 あなたは雄牛を会見の天幕の前に連れて来なさい。アロンとその子らはその雄牛の頭に手を置かななければならない。

11 あなたは会見の天幕の入り口で、主の前でその雄牛を屠らなければならない。

12 雄牛の血の一部を取り、あなたの指で祭壇の角に塗り、すべての血を祭壇の土台に注ぎ出さなければならない。

13 内臓を覆うすべての脂肪、肝臓の覆い、二つの腎臓とそれについている脂肪を取り、祭壇の上で焼かなければならない。

14 しかし、雄牛の肉、その皮、その糞は、陣営の外で火で焼かなければならない。これは罪のいけにえである。

15 また、一匹の雄羊を取り、アロンとその子らはその雄羊の頭に手を置かなければならない。

16 あなたはその雄羊を屠り、その血を取って祭壇の周囲に振りかけなければならない。

17 その雄羊を切り分け、その内臓と足を洗い、切り分けた肉や頭と一緒に置きなさい。

18 その雄羊のすべてを祭壇の上で焼かなければならない。これは主への全焼のいけにえである。それは心地よい香り、主への火によるささげ物である。

19 もう一匹の雄羊を取り、アロンとその子らはその雄羊の頭に手を置かなければならない。

20 そしてあなたはその雄羊を屠り、その血の一部を取り、アロンの右の耳たぶ、その子の右の耳たぶ、彼らの右手の親指、右足の親指に塗り、その血を祭壇の周囲に振りかけなければならない。

21 祭壇の上にある血と注ぎ油の一部を取って、アロンとその衣服、および彼と共にいるその子らとその衣服に振りかけなさい。そうすれば彼とその衣服、および彼と共にいるその子らとその衣服は聖なるものとなる。

22 また、その雄羊の脂肪、脂尾、内臓を覆う脂肪、肝臓の覆い、二つの腎臓、それについている脂肪、右のももを取りなさい（それは任職の雄羊だからである）。

23 さらに、主の前にある種なしパンの籠から、パンの塊一つ、油を塗ったパンの菓子一つ、薄焼きパン一つを取りなさい。

24 あなたはこれらすべてをアロンの手と、その子らの手に乗せ、揺り動かすささげ物として主の前に揺り動かさなければならない。

25 あなたはそれらを彼らの手から取り、祭壇の上で全焼のいけにえの上で焼きなさい。これは主の前の心地よい香り、主への火によるささげ物である。

26 アロンの任職の雄羊の胸を取り、揺り動かすささげ物として主の前に揺り動かさなければならない。これがあなたの分となる。

27 あなたは揺り動かされたささげ物の胸と、持ち上げられたささげ物のももを聖別しなければならない。それは任職の雄羊のものであり、アロンのためのもの、その子らのためのものである。

28 これは永遠の分として、イスラエルの子らからアロンとその子らに与えられるものである。それは持ち上げられたささげ物だからである。それはイスラエルの子らがささげる和解のいけにえの犠牲の一部、すなわち主への持ち上げられたささげ物である。

29 アロンの聖なる衣服は、彼の後の子らのためのものとなり、彼らがそれを着て油を注がれ、それを着て任職される。

30 息子の中で彼の代わりに祭司となる者が、聖所で仕えるために会見の天幕に入る時、七日間それを着なければならない。

31 任職の雄羊を取り、その肉を聖なる場所で煮なさい。

32 アロンとその子らは、会見の天幕の入り口で、その雄羊の肉と籠の中にあるパンを食べなければならない。

33 彼らは任職と聖別のために贖罪がなされたこれらのものを食べなければならない。しかし、他の人はそれを食べてはならない。それらは聖なるものだからである。

34 もし任職の肉やパンが朝まで残ったなら、その残りを火で焼き尽くさなければならない。それは聖なるものなので、食べてはならない。

35 あなたは、わたしがあなたに命じたすべてに従って、アロンとその子らにそのようにしなければならない。あなたは七日間かけて彼らを任職しなければならない。

36 あなたは毎日、贖罪のための罪のいけにえの雄牛をささげなければならない。祭壇のために贖罪をする時、あなたはそれをきよめなければならない。またそれに油を注いで聖別しなければならない。

37 七日間、祭壇のために贖罪をし、それを聖別しなさい。そうすれば祭壇は最も聖なるものとなる。祭壇に触れるものはみな聖なるものとなる。

38 あなたが祭壇の上にささげるべきものは次の通りである。一歳の小羊二匹を、毎日絶えずささげる。

39 一匹の小羊は朝にささげ、もう一匹の小羊は夕暮れにささげなければならない。

40 一匹の小羊と共に、一エファ*の十分の一の上

* 29:40 29:40 1エファは約22リットル、あるいは約3分の2ブッシェルである。

質な小麦粉に、一ヒン[†]の四分の一のついて搾った油を混ぜたものと、注ぎのささげ物として一ヒンの四分の一のぶどう酒をささげる。

41 もう一匹の小羊は夕暮れにささげ、朝の穀物のささげ物と注ぎのささげ物と同様にしなさい。心地よい香り、主への火によるささげ物である。

42 これが、あなたがたの代々にわたり、会見の天幕の入り口、主の前で絶えずささげられる全焼のいけにえとなる。そこでわたしはあなたがたと会い、そこであなたに語る。

43 そこでわたしはイスラエルの子らと会う。その場所はわたしの栄光によって聖別される。

44 わたしは会見の天幕と祭壇を聖別する。わたしはまた、アロンとその子らを聖別し、祭司としてわたしに仕えさせる。

45 わたしはイスラエルの子らの間に住み、彼らの神となる。

46 彼らは、わたしが彼らの間に住むために、エジプトの地から彼らを導き出した、彼らの神、主であることを知るであろう。わたしは彼らの神、主である。

30

1 香をたくための祭壇を造りなさい。アカシアの木でそれを造らなければならない。

2 その長さは一キュビト*、その幅は一キュビトとする。それは四角形であり、その高さは二キュビトとする。その角は祭壇と一体でなければならない。

[†] 29:40 29:40 1ヒンは約6.5リットル、すなわち1.7ガロンである。したがって、1ヒンの

* 30:2 30:2 一キュビトは、大人の腕の中指の先から肘までの長さで、約18インチ、すなわ

3 その上面、周囲の側面、およびその角に純金をかぶせなさい。そしてその周囲に金の飾り縁を造りなさい。

4 その飾り縁の下に二つの金の環を造りなさい。その両側の側面にそれを造らなければならない。それらは祭壇を担ぐための横木を通す場所となる。

5 アカシアの木で横木を造り、それに金をかぶせなさい。

6 あかしの箱のそばにある垂れ幕の手前、わたしがあなたと会うあかしの上にある贖いの座の前にそれを置きなさい。

7 アロンは毎朝、その上で香りのよい香をたかなければならない。彼がともしびを整える時、それをたかなければならない。

8 夕暮れにアロンがともしびをともし時、彼はそれをたかなければならない。これは、あなたがたの代々にわたり、主の前で絶えずたく香である。

9 あなたがたは、その上で異なった香をたいたり、全焼のいけにえや穀物のささげ物をささげたりしてはならない。また、その上に注ぎのささげ物を注いではならない。

10 アロンは年に一度、その角の上で贖罪をしなければならない。年に一度、贖罪のための罪のいけにえの血をもって、あなたがたの代々にわたり、その祭壇のために贖罪をしなければならない。それは主にとって最も聖なるものである。」

11 主はモーセに語って言われた。

12 「あなたがイスラエルの子らの人口調査をして、数えられる者たちを数える時、彼らを数えるにあたり、各人は自分の魂のあがない金を主に納めなければならない。これは、あなたが彼らを数える時に、彼らの中に疫病が起こらないためである。

13 数えられる者たちの中に加わる者は皆、聖所のシエケル[†]に従って半シエケルを納めなければならない（一シエケルは二十ゲラ[‡]である）。半シエケルが主へのささげ物となる。

14 数えられる者たちの中に加わる二十歳以上の者は皆、主へのささげ物を納めなければならない。

15 あなたがたの魂のために贖罪をするため、主へのささげ物を納める時、富んでいる者が半シエケルよりも多く納めてはならず、貧しい者が少なく納めてもならない。

16 あなたはイスラエルの子らから贖罪の銀を受け取り、それを会見の天幕の奉仕に当てなさい。それはあなたがたの魂のために贖罪をするため、主の御前でイスラエルの子らのための記念となる。」

17 主はモーセに語って言われた。

18 「洗うための青銅の洗盤と、青銅のその台を造りなさい。それを会見の天幕と祭壇の間に置き、その中に水を入れなさい。

19 アロンとその子らは、それで手と足を洗わなければならない。

20 彼らが会見の天幕に入る時、死なないように水で洗わなければならない。あるいは、奉仕のために祭壇に近づき、主への火によるささげ物を焼く時にもそうである。

21 死なないために、彼らは手と足を洗わなければならない。これは彼らに対する、すなわち彼とその後々の彼の子孫に対する永遠の掟となる。」

22 さらに主はモーセに語って言われた。

† 30:13 30:13 一シエケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。

‡ 30:13 30:13 一ゲラは約0.5グラム、あるいは約7.7グレーンである。

23 「また、最上の香料を取りなさい。液体の没薬を五百シェケル[§]、香りのよい肉桂をその半分の二百五十、香りのよい菖蒲を二百五十、

24 桂皮を聖所のシェケルに従って五百、そしてオリブ油を一ヒン^{*}取りなさい。

25 あなたは香料作りの技法に従って調合した香料の、聖なる注ぎ油を造りなさい。それは聖なる注ぎ油となる。

26 これを用いて、会見の天幕、あかしの箱、

27 机とそのすべての器具、燭台とその付属物、香の祭壇、

28 全焼のいけにえの祭壇とそのすべての器具、洗盤とその台に油を注ぎなさい。

29 それらを聖別し、最も聖なるものとしなさい。それに触れるものはみな聖なるものとなる。

30 アロンとその子らに油を注いで聖別し、祭司としてわたしに仕えさせなさい。

31 あなたはイスラエルの子らに語って言いなさい。『これはあなたがたの代々にわたり、わたしにとって聖なる注ぎ油となる。』

32 人の肉の上にこれを注いではならない。また、同じ調合でこれと似たものを造ってもならない。これは聖なるものである。あなたがたにとって聖なるものとしなければならない。

33 これに似たものを調合する者、あるいはこれを一般の人に塗る者はみな、その民から断ち切られる。』」

34 主はモーセに言われた。「香料を取りなさい。樹脂、オニカ、ガルバヌム、これらの香料と純

§ 30:23 30:23 一シェケルは約10グラム、すなわち約0.35オンスである。したがって500

* 30:24 30:24 1ヒンは約6.5リットル、あるいは1.7ガロンである。

粹な乳香である。それぞれ同量とする。

³⁵ 香料作りの技法に従って、塩を混ぜた、純粋で聖なる香を造りなさい。

³⁶ その一部を細かく碎き、それを会見の天幕の中の契約の前に置きなさい。そこでわたしはあなたと会う。それはあなたがたにとって最も聖なるものとなる。

³⁷ あなたがたが造るこの香は、同じ調合で自分たちのために造ってはならない。それは主のために聖なるものとしなければならない。

³⁸ 香りを楽しむためにこれに似たものを造る者はみな、その民から断ち切られる。」

31

¹ 主はモーセに語って言われた。

² 「見よ、わたしはユダ部族のフルの子であるウリの子ベツアルエルを名指して呼んだ。

³ わたしは彼を神の霊で満たし、知恵と英知と知識とあらゆる種類の職人の技を与えた。

⁴ それは、巧みな意匠を考案し、金、銀、青銅で細工をし、

⁵ はめ込み用の石を切り、木を彫り、あらゆる種類の職人の技で仕事をするためである。

⁶ 見よ、わたし自身が、ダン部族のアヒサマクの子オホリアブを彼と共に任命した。わたしは心に知恵のあるすべての者の心に知恵を授けた。それは彼らが、わたしがあなたに命じたすべてのものを造るためである。

⁷ すなわち、会見の天幕、あかしの箱、その上にある贖いの座、天幕のすべての器具、

⁸ 机とその器具、純金の燭台とそのすべての器具、香の祭壇、

9 全焼のいけにえの祭壇とそのすべての器具、洗盤とその台、

10 精巧に織られた衣服、すなわち祭司アロンのための聖なる衣服と、その子らが祭司として仕えるための衣服、

11 注ぎ油、聖所のための香りのよい香である。わたしがあなたに命じたすべてに従って、彼らは造らなければならない。」

12 主はモーセに語って言われた。

13 「イスラエルの子らに語って言いなさい。『あなたがたは必ずわたしの安息日を守らなければならない。それは、わたしとあなたがたとの間の、代々にわたるしるしであり、わたしがあなたがたを聖別する主であることを、あなたがたが知るためである。』

14 それゆえ、あなたがたは安息日を守らなければならない。それはあなたがたにとって聖なるものからである。これを汚す者は必ず死刑に処せられる。その日に仕事をする者はみな、その民の中から魂が断ち切られるからである。

15 六日間は仕事をしてよい。しかし七日目は全き休みの安息日であり、主に対して聖なる日である。安息日に仕事をする者は、必ず死刑に処せられる。

16 だからイスラエルの子らは安息日を守り、代々にわたって永遠の契約として安息日を遵守しなければならない。

17 これはわたしとイスラエルの子らとの間の永遠のしるしである。主は六日間で天と地を造り、七日目に休んで、息をつかれたからである。』」

18 神はシナイ山でモーセと語り終えられた時、あかしの板二枚、すなわち神の指で書かれた石の板をモーセに与えられた。

32

1 民は、モーセが山から下りて来るのが遅いのを見ると、アロンのもとに集まって彼に言った。「さあ、私たちのために、私たちの先頭に立って行く神々を造ってください。私たちがエジプトの地から導き上ったあのモーセという人が、どうなってしまったのか分からないからです。」

2 アロンは彼らに言った。「あなたがたの妻や息子、娘たちの耳にある金の環を外し、私のところに持って来なさい。」

3 民は皆、自分たちの耳にある金の環を外し、アロンのところに持って来た。

4 アロンは彼らが渡したものを受け取り、彫刻具でそれを形作り、鑄造した子牛を造った。すると彼らは言った。「イスラエルよ、これがあなたをエジプトの地から導き上った、あなたの神々である。」

5 アロンはこれを見て、その前に祭壇を築いた。アロンは布告して、「明日は主への祭りである」と言った。

6 彼らは翌日早く起き、全焼のいけにえをささげ、和解のいけにえを持って来た。民は座って飲み食いし、立ち上がって遊んだ。

7 主はモーセに言われた。「行け、下りて行け。あなたがエジプトの地から導き上ったあなたの民は墮落してしまったからだ。」

8 彼らは、わたしが彼らに命じた道から早くも外れてしまった。彼らは自分たちのために鑄造した子牛を造り、それを拝み、それにいけにえをささげて、『イスラエルよ、これがあなたをエジプトの地から導き上った、あなたの神々である』と言っている。」

9 主はモーセに言われた。「わたしはこの民を見た。見よ、彼らはいかなる固い民である。

10 だから今、わたしを放っておけ。わたしの怒りが彼らに向かって燃え上がり、彼らを滅ぼし尽くすためである。そしてわたしはあなたを大いなる国民とする。」

11 モーセは彼の神、主に懇願して言った。「主よ、なぜあなたの怒りが、大いなる力と力強い手によってエジプトの地から導き出されたあなたの民に向かって燃え上がるのですか。

12 なぜエジプト人に『神は彼らを山々で殺し、地の面から滅ぼし尽くすという、災いのために彼らを導き出したのだ』と言わせるのですか。あなたの激しい怒りをおさめ、あなたの民に対するこの災いを思い直してください。

13 あなたのしもべであるアブラハム、イサク、イスラエルを思い出してください。あなたはご自身にかけて彼らに誓い、『わたしはあなたがたの子孫*を空の星のように増やし、わたしが語ったこのすべての地をあなたがたの子孫に与え、彼らはそれを永遠に受け継ぐであろう』と言われました。」

14 それで主は、ご自分の民に下すと言われた災いを思い直された。

15 モーセは向き直り、あかしの板二枚を手を持って山から下りた。その板は両面に字が書かれていた。片面にも、もう片面にも書かれていた。

16 その板は神の作であり、その字は板に彫られた神の文字であった。

17 ヨシユアは民が叫ぶ声を聞いて、モーセに言った。「陣営に戦いの声がします。」

* 32:13 32:13 あるいは、種。

18 モーセは言った。「勝利を叫ぶ声ではない。敗北を嘆く声でもない。私が聞くのは歌を歌う者たちの声である。」

19 彼は陣営に近づくとすぐに、子牛と踊りを見た。するとモーセの怒りは激しく燃え上がり、彼は手から板を投げつけ、山のふもとでそれを砕いた。

20 彼は彼らが造った子牛を取り、火で焼き、粉々に砕き、それを水の上にまき散らし、イスラエルの子らに飲ませた。

21 モーセはアロンに言った。「この民があなたに何をしたので、あなたは彼らに大きな罪をもたらしたのか。」

22 アロンは言った。「我が主よ、怒りを燃やさないでください。この民が悪に傾いていることを、あなたはご存じです。」

23 彼らは私に言いました。『私たちのために、私たちの先頭に立って行く神々を造ってください。私たちをエジプトの地から導き上ったあのモーセという人が、どうなってしまったのか分からないからです。』

24 私は彼らに言いました。『金を持っている者は誰でもそれを外しなさい。』こうして彼らがそれを私に渡したので、私がそれを火に投げ入れると、この子牛が出てきたのです。」

25 民が抑えがきかなくなっているのをモーセは見た。アロンが彼らの抑えを失わせ、敵の物笑いの種にしてしまったからである。

26 その時、モーセは陣営の入り口に立って言った。「主の側につく者は誰でも、私のところに来なさい！」

すると、レビのすべての子らが彼のもとに集まった。

27 彼は彼らに言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。『各人は太ももに剣を帯び、陣営の入り口から入り口へと行き巡り、各々が自分の兄弟、各々が自分の友、各々が自分の隣人を殺せ。』」

28 レビの子らはモーセの言葉通りにした。その日、民のうち約三千人が倒れた。

29 モーセは言った。「今日、あなたがたは主のために自らを聖別しなさい。各々が自分の息子や自分の兄弟に逆らったからであり、今日主があなたがたに祝福をお与えになるためである。」

30 翌日、モーセは民に言った。「あなたがたは大きな罪を犯した。今、私は主のもとに上って行く。あるいは、あなたがたの罪のために贖罪ができるかもしれない。」

31 モーセは主のもとに戻って言った。「ああ、この民は大きな罪を犯し、自分たちのために金の神々を造りました。

32 しかし今、もしあなたが彼らの罪を赦してくださいのなら。――もしそうでないなら、どうかあなたが書かれたあなたの書物から、私を消し去ってください。」

33 主はモーセに言われた。「わたしに対して罪を犯した者は誰でも、わたしの書物から消し去る。

34 さあ行きなさい。わたしがあなたに語った場所に民を導け。見よ、わたしの使いがあなたの前に行く。しかし、わたしが罰する日には、わたしは彼らの罪のために彼らを罰する。」

35 主は民を打たれた。アロンが造った子牛に関して、彼らが行ったことのゆえである。

33

1 主はモーセに言われた。「ここから出発し、

上って行きなさい。あなたと、あなたがエジプトの地から導き上った民と共に、わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに『あなたの子孫にそれを与える』と誓った地へ行きなさい。

² わたしはあなたの前に使いを遣わし、カナン人、アモリ人、ヘト人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人を追い出す。

³ 乳と蜜の流れる地へ行きなさい。しかし、わたしはあなたがたの間には上って行かない。あなたがたはうなじの固い民であり、わたしが途中であなたがたを滅ぼしてしまうかもしれないからである。」

⁴ 民はこの悪い知らせを聞いて嘆き悲しみ、だれも飾り物を身に着けなかった。

⁵ 主はモーセに言われていた。「イスラエルの子らに言いなさい。『あなたがたはうなじの固い民である。もしわたしが一瞬でもあなたがたの上に上って行けば、わたしはあなたがたを滅ぼしてしまうだろう。だから今、飾り物を外しなさい。そうすれば、わたしがあなたがたに何をするかを知ることになる。』」

⁶ イスラエルの子らはホレブの山から先、自分たちの飾り物を外した。

⁷ さて、モーセは天幕を取り、それを陣営の外、陣営から遠く離れた所に張り、それを「会見の天幕」と呼んでいた。主を求める者はみな、陣営の外にある会見の天幕へ出て行った。

⁸ モーセが天幕へ出て行く時は、民は皆立ち上がり、それぞれ自分の天幕の入り口に立って、モーセが天幕に入るまで彼を見送った。

⁹ モーセが天幕に入ると、雲の柱が降りてきて天幕の入り口に立ち、主はモーセと語られた。

10 民は皆、雲の柱が天幕の入り口に立っているのを見た。民は皆立ち上がり、それぞれ自分の天幕の入り口で礼拝した。

11 人が自分の友と語るように、主はモーセと顔と顔を合わせて語られた。彼は陣営に戻ったが、彼の従者であるヌンの子ヨシュアという若者は、天幕から離れなかった。

12 モーセは主に言った。「見よ、あなたは私に『この民を導き上れ』と言われます。しかし、誰を私と一緒に遣わすのかを知らせておられません。しかもあなたは『わたしはあなたを名指しで知っており、あなたもわたしの目に好意を得ている』と言われました。

13 だから今、もし私があなただの目に好意を得ているなら、どうか今、私にあなただの道を示してください。私があなただを知り、あなただの目に好意を得るためです。そして、この国民があなただの民であることを心に留めてください。」

14 主は言われた。「わたしの臨在があなただと共に行き、わたしはあなたに安息を与える。」

15 モーセは主に言った。「もしあなただの臨在が共に行かないなら、私たちをここから連れ上らないでください。

16 私とあなただの民が、あなただの目に好意を得ていることは、何によって知られるのでしょうか。あなたが私たちと共に行ってくださることによってではありませんか。そうして、私とあなただの民が、地だの面にあるすべての民から区別されるのです。」

17 主はモーセに言われた。「あなたが語ったこの事も、わたしは行おう。あなたがわたしだの目に好意を得ており、わたしがあなたを名指しで知っているからである。」

18 モーセは言った。「どうか、あなたの栄光を私に見せてください。」

19 主は言われた。「わたしは、わたしのすべての良きものをあなたの前に通り過ぎさせ、あなたの前に主の名を宣言する。わたしは恵もうとする者を恵み、あわれもうとする者をあわれむ。」

20 さらに言われた。「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。」

21 主はさらに言われた。「見よ、わたしの傍らに一つの場所がある。あなたはその岩の上に立ちなさい。」

22 わたしの栄光が通り過ぎる時、わたしはあなたを岩の裂け目に入れ、わたしが通り過ぎるまでわたしの手であなたを覆う。

23 その後、わたしが手をのけるので、あなたはわたしの背を見るだろう。しかし、わたしの顔は見られない。」

34

1 主はモーセに言われた。「最初のような石の板を二枚切り出しなさい。あなたが砕いた最初の板にあった言葉を、わたしはその板に書き記す。」

2 朝までに準備をし、朝、シナイ山に上り、山の頂でわたしの前に立ちなさい。

3 誰もあなたと一緒に上って来てはならず、山のどこにも姿を見せてはならない。羊の群れも牛の群れも、その山の前で草をはませてはならない。」

4 モーセは最初のような石の板を二枚切り出した。そしてモーセは朝早く起き、主が命じられた通りにシナイ山に上り、手に二枚の石の板を持っていた。

5 主は雲の中に降りてきて、そこで彼と共に立ち、主*の御名を宣言された。

6 主は彼の前を通り過ぎ、宣言された。

「主、主、あわれみ深く恵み豊かな神、怒るのに遅く、慈しみと真実に満ち、

7 何千代にもわたって慈しみを保ち、咎と背きと罪を赦す者。しかし、有罪の者を決して無罪とはせず、父の咎を子に、子の子に、三代、四代にまで報いる者。」

8 モーセは急いで地に頭を下げて礼拝した。

9 彼は言った。「主よ、もし今、私があなたの目に好意を得ているなら、どうか主が私たちの間を行かれますように。これはうなじの固い民ですが、私たちの咎と罪を赦し、私たちをあなたの嗣業としてください。」

10 主は言われた。「見よ、わたしは契約を結ぶ。あなたのすべての民の前で、全地においても、どの国民においても今までなされたことのないような驚くべき事を行う。あなたの周囲にいるすべての民は、主の業を見るであろう。わたしがあなたと共に行うことは、恐るべきことだからである。

11 今日わたしがあなたに命じることを守りなさい。見よ、わたしはアモリ人、カナン人、ヘト人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人をあなたの前から追い出す。

12 あなたがこれから入って行く地の住民と契約を結ばないように気をつけなさい。それがあなたがたの間で罨とならないためである。

13 かえって、あなたがたは彼らの祭壇を壊し、彼らの石の柱を打ち砕き、彼らのアシエラ

* 34:5 34:5 すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来

の木の柱を切り倒さなければならない。

14 あなたは他の神を拜んではならない。主の御名は『ねたみ』であり、ねたむ神だからである。

15 その地の住民と契約を結んではならない。彼らとその神々を慕って淫行を行い、その神々にいけにえをささげる時、誰かがあなたを招き、あなたがそのいけにえを食べるかもしれないからである。

16 また、あなたが彼らの娘たちをあなたの息子たちの妻に迎え、その娘たちが自分の神々を慕って淫行を行い、あなたの息子たちにもその神々を慕って淫行を行わせるかもしれないからである。

17 あなたは自分のために鑄造した神々を造ってはならない。

18 種なしパンの祭りを守らなければならない。わたしがあなたに命じた通り、アビブの月の定められた時に、七日間、種なしパンを食べなければならない。アビブの月に、あなたがエジプトから出て来たからである。

19 胎を開くものはみな、わたしのものである。あなたの家畜のうち、牛や羊の雄の初子もみなそうである。

20 ろばの初子は小羊で贖わなければならない。もし贖わないなら、その首を折らなければならない。あなたは自分の息子たちの初子をみな贖わなければならない。誰も手ぶらでわたしの前に現れてはならない。

21 六日間は働き、七日目には休まなければならない。耕す時にも刈り入れの時にも休まなければならない。

22 小麦の刈り入れの初穂で七週の祭りを、また年の終わりに取り入れの祭りを守らなければならない。

23 年に三回、あなたの男子はみな、イスラエルの神、主なる神の前に現れなければならない。

24 わたしはあなたの前から国々を追い出し、あなたの境界を広げる。あなたが年に三回、あなたの神、主の前に現れるために上って行く時、誰もあなたの地を欲しがることはない。

25 わたしのいけにえの血を、パン種が入ったものと共にささげてはならない。過越の祭りのいけにえを朝まで残しておいてはならない。

26 あなたの土地の初穂の最上のものを、あなたの神、主の家に持って来なければならない。子山羊をその母の乳で煮てはならない。

27 主はモーセに言われた。「これらの言葉を書き記しなさい。これらの言葉に従って、わたしはあなたと、そしてイスラエルと契約を結んだからである。」

28 モーセはそこで四十日四十夜、主と共にいた。彼はパンも食わず、水も飲まなかった。彼は契約の言葉、十戒を板に書き記した。

29 モーセがシナイ山から下りて来た時、手には二枚のあかしの板を持っていた。彼が山から下りて来た時、主と語ったために自分の顔の肌が光を放っていることを、モーセは知らなかった。

30 アロンとイスラエルのすべての子らがモーセを見ると、見よ、彼の顔の肌は光を放っていた。彼らは恐れて彼に近づけなかった。

31 モーセが彼らと呼ぶと、アロンと会衆のすべての指導者たちが彼のもとに戻って来たので、モーセは彼らに語った。

32 その後、イスラエルのすべての子らが近づいて来たので、彼は主がシナイ山で彼に語られたすべての命令を彼らに授けた。

33 モーセは彼らと語り終えると、自分の顔に覆いを掛けた。

34 しかし、モーセが主と語るために主の前に進み出る時は、外に出るまで覆いを外していた。彼は出て来ると、命じられたことをイスラエルの子らに語った。

35 イスラエルの子らがモーセの顔、すなわちモーセの顔の肌が光を放っているのを見たので、モーセは主と語るために中に入るまで、再び自分の顔に覆いを掛けた。

35

1 モーセはイスラエルの子らの全会衆を集めて彼らに言った。「これは、あなたがたが行うようにと主が命じられた言葉である。

2 六日間は仕事をしてもよいが、七日目はあなたがたにとって聖なる日であり、主への全き休みの安息日である。この日に仕事をする者はみな死刑に処せられる。

3 安息日には、あなたがたのどの住まいでも火をたいてはならない。」

4 モーセはイスラエルの子らの全会衆に語って言った。「これは主が命じられたことである。

5 あなたがたの中から主へのささげ物を取りなさい。心から進んでささげる者はだれでも、主へのささげ物としてこれを持って来なさい。金、銀、青銅、

6 青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布、山羊の毛、

7 赤く染めた雄羊の皮、ジュゴンの皮、アカシアの木、

8 灯火のための油、注ぎ油と香りのよい香のための香料、

9 縞めのう、そしてエポデや胸当てにはめ込むための宝石である。

10 あなたがたのうち心に知恵のある者はみな来て、主が命じられたすべてのものを造りなさい。

11 幕屋、その天幕、その覆い、その留め金、その板、その横木、その柱、その台座、

12 箱とその横木、贖いの座、仕切りの垂れ幕、

13 机とその横木、そのすべての器具、供えのパン、

14 灯火のための燭台とその器具、そのともしび、灯火のための油、

15 香の祭壇とその横木、注ぎ油、香りのよい香、幕屋の入り口にある戸口の幕、

16 全焼のいけにえの祭壇と青銅の格子、その横木、そのすべての器具、洗盤とその台、

17 庭の幕、その柱、その台座、庭の入り口の幕、

18 幕屋の釘、庭の釘とそれらのひも、

19 聖所で仕えるための精巧に織られた衣服、すなわち祭司アロンのための聖なる衣服と、その子らが祭司として仕えるための衣服である。」

20 イスラエルの子らの全会衆はモーセの前から退出した。

21 そして、心が動かされた者、霊に促されて進んで心に決めた者はみな来て、会見の天幕の仕事のため、そのすべての奉仕のため、また聖なる衣服のために、主へのささげ物を持って来た。

22 男も女も進んで心に決めた者はみな来て、ブローチ、耳輪、印章指輪、腕輪など、あらゆる金の飾り物を持って来た。金を主へのささげ物としてささげた者もみなそうであった。

23 青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布、山羊の毛、赤く染めた雄羊の皮、ジュゴンの皮を持っている者もみな、それらを持って来た。

24 銀や青銅のささげ物をささげる者はみな、それ

を主へのささげ物として持って来た。奉仕のあらゆる仕事に用いるアカシアの木を持っている者もみな、それを持って来た。

25 心に知恵のある女たちはみな、自分たちの手で糸を紡ぎ、その紡いだもの、すなわち青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布を持って来た。

26 知恵によって心が動かされた女たちもみな、山羊の毛を紡いだ。

27 指導者たちは、縞めのうと、エポデや胸当てにはめ込むための宝石を持って来た。

28 また、香料と、灯火のため、注ぎ油のため、香りのよい香のための油も持って来た。

29 イスラエルの子らは、男も女も、主がモーセを通して命じられたすべての仕事のために、進んで心に決めて持って来ようとする者はみな、自ら進んで主へのささげ物を持って来た。

30 モーセはイスラエルの子らに言った。「見よ、主はユダ部族のフルの子であるウリの子ベツアルエルを名指しで呼んだ。

31 神は彼を神の霊で満たし、知恵、英知、知識、そしてあらゆる種類の職人の技を与えた。

32 それは巧みな意匠を考案し、金、銀、青銅で細工をし、

33 はめ込み用の石を切り、木を彫り、あらゆる種類の巧みな職人の技で仕事をするためである。

34 主は、彼とダン部族のアヒサマクの子オホリアブの心に、人に教える力を授けられた。

35 主は彼らを心の知恵で満たし、彫刻師の仕事、熟練した職人の仕事、青色、紫色、緋色の糸、および撚り糸で織った亜麻布による刺繍をする者の仕事、また機織りの仕事など、あらゆる仕

事を行う者、また巧みな意匠を考案する者のすべての仕事を行わせるようにされた。

36

¹ベツアルエル、オホリアブ、および心に知恵のあるすべての人は、聖所の奉仕のためのすべての仕事を行う方法を知ると主から知恵と英知を授けられた者であり、彼らは主が命じられたすべてに従って仕事をしなければならない。」

²モーセは、ベツアルエル、オホリアブ、および主がその心に知恵を授けられた心に知恵のあるすべての人、すなわちその仕事を行うために心が動かされて来たすべての者を呼び寄せた。

³彼らは、イスラエルの子らが聖所の奉仕の仕事を行い、それを造るために持って来たすべてのささげ物をモーセから受け取った。民はなおも毎朝、自ら進んでささげ物を彼のもとに持って来た。

⁴聖所のすべての仕事を行っていた知恵のある人々はみな、各自が行っていた仕事から離れて来て、

⁵モーセに語って言った。「民は、主が造るようと命じられた奉仕の仕事に十分な量よりもはるかに多く持って来ています。」

⁶そこでモーセは命じて、陣営中に布告を行き渡らせて言った。「男も女も、聖所へのささげ物のために、もう何も作ってはならない。」こうして、民は持って来るのを止められた。

⁷彼らが持っていた材料は、すべての仕事を行うのに十分であり、なお余りがあったからである。

⁸仕事をする者たちのうち、心に知恵のある人々はみな、撚り糸で織った亜麻布、青色、紫色、緋色の糸で十枚の幕を造り、幕屋を造った。彼らはケ

ルビムを熟練した職人の細工としてこれらに織り出した。

⁹ それぞれの幕の長さは二十八キュビト*、幅は四キュビトとした。すべての幕は同じ寸法であった。

¹⁰ 彼は五枚の幕を互いにつなぎ合わせ、もう五枚の幕も互いにつなぎ合わせた。

¹¹ 彼はつなぎ合わせた一方の幕の端に青い糸で輪を作った。もう一つのつなぎ合わせた幕の外側の端にも同じようにした。

¹² 一方の幕に五十の輪を作り、もう一つのつなぎ合わせた幕の端にも五十の輪を作った。輪は互いに向かい合うようにした。

¹³ 彼は五十の金の留め金を造り、その留め金で幕を互いにつなぎ合わせた。こうして幕屋は一つとなった。

¹⁴ 彼は幕屋の上に掛ける天幕として、山羊の毛で幕を造った。十一枚の幕を造った。

¹⁵ それぞれの幕の長さは三十キュビト、幅は四キュビトとした。十一枚の幕は同じ寸法であった。

¹⁶ 彼は五枚の幕を一つにつなぎ合わせ、六枚の幕を一つにつなぎ合わせた。

¹⁷ 彼はつなぎ合わせた一方の外側の幕の端に五十の輪を作り、もう一つのつなぎ合わせた幕の外側の端にも五十の輪を作った。

¹⁸ 彼は五十の青銅の留め金を造り、天幕を一つにつなぎ合わせた。

¹⁹ 彼は天幕のために赤く染めた雄羊の皮の覆いを造り、その上にジュゴンの皮の覆いを造った。

²⁰ 彼は幕屋のためにアカシアの木で板を造り、直立させた。

* 36:9 36:9 一キュビトは、大人の腕の中指の先から肘までの長さで、約18インチ、すなわち約46センチメートルである。

21 板の長さは十キュビト、それぞれの板の幅は一・五キュビトであった。

22 それぞれの板には、互いに合うように二つのほぞがあった。彼は幕屋のすべての板をこのように造った。

23 彼は幕屋の南側に向かう側に、二十枚の板を造った。

24 彼はその二十枚の板の下に四十の銀の台座を造った。すなわち、一枚の板の二つのほぞの下に二つの台座、もう一枚の板の二つのほぞの下にも二つの台座を置いた。

25 幕屋のもう一方の側、すなわち北側にも二十枚の板を造り、

26 それらの四十の銀の台座を造った。すなわち、一枚の板の下に二つの台座、もう一枚の板の下にも二つの台座を置いた。

27 幕屋の奥、すなわち西側のために六枚の板を造った。

28 幕屋の奥の両隅のために二枚の板を造った。

29 これらは下で二重になり、同じように頂部でも一つの環に向けて一つとなるようにした。彼は二つの隅にある両方の板をそのようにした。

30 八枚の板と、その銀の台座は十六の台座となった。すべての板の下に二つずつ台座があった。

31 彼はアカシアの木で横木を造った。幕屋の一方の側の板のために五本、

32 幕屋のもう一方の側の板のために五本の横木、そして幕屋の奥、すなわち西側の板のために五本の横木を造った。

33 彼は板の真ん中を通る中央の横木を、端から端まで通るようにした。

34 彼は板に金をかぶせ、横木を通す場所として金の環を造り、横木にも金をかぶせた。

35 彼は青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布で垂れ幕を造った。それにケルビムを熟練した職人の細工として織り出した。

36 そのために四本のアカシアの木の柱を造り、それに金をかぶせた。その掛け釘は金であった。彼はそのために四つの銀の台座を鑄造した。

37 彼は天幕の入り口のために、青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布で、刺繍をすする者の細工による幕を造った。

38 また、その五本の柱とその掛け釘を造り、その柱頭と帯飾りに金をかぶせた。その五つの台座は青銅であった。

37

1 ベツアルエルはアカシアの木で箱を造った。その長さは二・五キュビト*、幅は一・五キュビト、高さは一・五キュビトであった。

2 彼はその内側と外側に純金をかぶせ、その周りに金の飾り縁を造った。

3 彼はその四つの足に四つの金の環を鑄造した。一方の側に二つの環、もう一方の側にも二つの環を取り付けた。

4 彼はアカシアの木で横木を造り、それに金をかぶせた。

5 箱を担ぐために、彼はその横木を箱の側面の環に通した。

6 彼は純金で贖いの座を造った。その長さは二・五キュビト、幅は一・五キュビトであった。

7 彼は金のケルビムを二つ造った。贖いの座の両端に、それらを打ち出し細工で造った。

* 37:137:1一キュビトは、大人の腕の中指の先から肘までの長さで、約18インチ、すなわち約45センチメートルである。

8 一つのケルブを一方の端に、もう一つのケルブをもう一方の端に造った。彼はケルビムを贖いの座の両端に、座と一体にして造った。

9 ケルビムはその翼を上に向けて広げ、その翼で贖いの座を覆い、互いに顔を向かい合せていた。ケルビムの顔は贖いの座の方に向けられていた。

10 彼はアカシアの木で机を造った。その長さは二キュビト、幅は一キュビト、高さは一・五キュビトであった。

11 彼はそれに純金をかぶせ、その周りに金の飾り縁を造った。

12 彼はその周りに手の幅の杵を造り、その杵の周りにも金の飾り縁を造った。

13 彼はそのために四つの金の環を鑄造し、四つの足にある四隅にその環を取り付けた。

14 机を担ぐための横木を通す場所として、環は杵の近くにあった。

15 机を担ぐために、彼はアカシアの木で横木を造り、それに金をかぶせた。

16 彼は机の上にある器具、すなわち皿、さじ、鉢、注ぎのささげ物を注ぐための水差しを純金で造った。

17 彼は純金で燭台を造った。彼は燭台を打ち出し細工で造った。その台座、支柱、杯、節、花は、それと一体であった。

18 その側面からは六つの枝が出ていた。一方の側から燭台の三つの枝、もう一方の側から燭台の三つの枝が出ていた。

19 一つの枝にはアーモンドの花のような三つの杯、節、花があり、もう一つの枝にもアーモンドの花のような三つの杯、節、花があった。燭台から出ている六つの枝がそのようであった。

20 燭台の支柱には、アーモンドの花のような四つの杯、節、花があった。

21 燭台から出ている六つの枝のために、それと一体の二つの枝の下に一つの節、それと一体の他の二つの枝の下に一つの節、それと一体のさらに他の二つの枝の下に一つの節があった。

22 それらの節と枝は燭台と一体であった。その全体が一つの純金の打ち出し細工であった。

23 彼はその七つのともしび、芯切りばさみ、芯取り皿を純金で造った。

24 彼はそのすべての器具を含めて、一タラント[†]の純金でこれを造った。

25 彼はアカシアの木で香の祭壇を造った。それは四角形で、長さは一キュビト、幅は一キュビトであった。高さは二キュビトであった。その角は祭壇と一体であった。

26 彼はその上面、周囲の側面、およびその角に純金をかぶせた。彼はその周囲に金の飾り縁を造った。

27 飾り縁の下にある両側の側面に、二つの金の環を造った。それらは祭壇を担ぐための横木を通す場所であった。

28 彼はアカシアの木で横木を造り、それに金をかぶせた。

29 彼は香料作りの技法に従って、聖なる注ぎ油と、香りのよい純粋な香を造った。

38

1 彼はアカシアの木で全焼のいけにえの祭壇を造った。それは四角形であった。長さは五キュ

[†] 37:24 37:24 一タラントは約30キログラム、すなわち66ポンド、あるいは965トロイオ

ビト*、幅は五キュビト、高さは三キュビトであつた。

² その四隅に角を造つた。その角は祭壇と一体であり、それに青銅をかぶせた。

³ 彼は祭壇のすべての器具、すなわち壺、十能、鉢、肉刺し、火皿を造つた。そのすべての器具を青銅で造つた。

⁴ 祭壇のために青銅の網目細工の格子を造り、祭壇の出張りの下、すなわち下部に取り付け、格子が祭壇の半分の高さに届くようにした。

⁵ 青銅の格子の四隅に、横木を通す場所として四つの環を鑄造した。

⁶ 彼はアカシアの木で横木を造り、それに青銅をかぶせた。

⁷ 祭壇を担ぐために、祭壇の側面にある環にその横木を通した。彼は祭壇を板で空洞に造つた。

⁸ 彼は青銅の洗盤とその青銅の台を、会見の天幕の入り口で奉仕する女たちの鏡で造つた。

⁹ 彼は庭を造つた。南側に向かう片側のために、撚り糸で織つた亜麻布の庭の幕を百キュビト設けた。

¹⁰ その二十本の柱と二十の台座は青銅であり、柱の掛け釘と帯飾りは銀であつた。

¹¹ 北側には百キュビトの幕を設けた。その二十本の柱と二十の台座は青銅であり、柱の掛け釘と帯飾りは銀であつた。

¹² 西側には五十キュビトの幕を設けた。その柱は十本、台座は十であり、柱の掛け釘と帯飾りは銀であつた。

¹³ 東に向かう東側は五十キュビトであつた。

* 38:138:1 一キュビトは、大人の腕の中指の先から肘までの長さで、約18インチ、すなわち約45センチメートルである。

14 入り口の一方の側の幕は十五キュビト、その柱は三本、台座は三つであった。

15 もう一方の側も同様であった。庭の入り口の両側には十五キュビトの幕があり、その柱は三本、台座は三つであった。

16 庭の周囲のすべての幕は、撚り糸で織った亜麻布であった。

17 柱の台座は青銅であった。柱の掛け釘と帯飾りは銀であり、その柱頭には銀がかぶせられていた。庭のすべての柱には銀の帯飾りがあった。

18 庭の入り口の幕は、青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布による、刺繍をする者の細工であった。長さは二十キュビトで、幅に沿った高さは庭の幕と同じく五キュビトであった。

19 その柱は四本、青銅の台座は四つであった。その掛け釘は銀であり、柱頭の覆いと帯飾りも銀であった。

20 幕屋のすべての釘と、庭の周囲の釘は青銅であった。

21 これらは幕屋、すなわちあかしの幕屋のために用いられた材料の総量である。それはモーセの命令により、祭司アロンの子イタマルの手によって、レビ人の奉仕のために数えられた。

22 ユダ部族のフルの子であるウリの子ベツアルエルは、主がモーセに命じられたすべてのものを造った。

23 彼と共に、ダン部族のアヒサマクの子オホリアブがいた。彼は彫刻師であり、熟練した職人であり、青色、紫色、緋色の糸、および亜麻布による刺繍をする者であった。

24 聖所のすべての仕事、すなわちあらゆる奉仕の仕事に用いられた金、すなわちささ

げ物の金は、聖所のシェケル[†]に従って、二十九タラント[‡]と七百三十シェケルであつた。

25 会衆の中で数えられた者たちの銀は、聖所のシェケルに従って百タラント[§]と千七百七十五シェケル^{*}であつた。

26 これは数えられる者たちの中に加わる二十歳以上の者、すなわち六十万三千五百五十人の一人一人について、一人当たり一ベカ[†]、すなわち聖所のシェケル[‡]に従って半シェケルであつた。

27 百タラント[§]の銀は、聖所の台座と垂れ幕の台座を鑄造するためのものであつた。百タラントで百の台座を、すなわち一つの台座につき一タラントを用いた。

28 彼は千七百七十五シェケル^{*}で柱のための掛け釘を作り、その柱頭に銀をかぶせ、そのための帯飾りを作つた。

29 ささげ物の青銅は、七十タラント[‡]と二千四百シェケル[‡]であつた。

30 彼はこれで会見の天幕の入り口の台座、青銅の祭壇とその青銅の格子、祭壇のすべての器具、

† 38:24 38:24 一シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。

‡ 38:24 38:24 一タラントは約30キログラム、すなわち66ポンド、あるいは965トロイオンスである。

§ 38:25 38:25 一タラントは約30キログラム、すなわち66ポンドである。

* 38:25 38:25 一シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。

† 38:26 38:26 一ベカは約5グラム、あるいは約0.175オンスである。

‡ 38:26 38:26 一シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。

§ 38:27 38:27 一タラントは約30キログラム、すなわち66ポンドである。

* 38:28 38:28 一シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。したがって1770シェケルは約17700グラム、すなわち17700グラムである。

† 38:29 38:29 一タラントは約30キログラム、すなわち66ポンドである。

‡ 38:29 38:29 70タラントと2400シェケルは約2124キログラム、すなわち2.124メートルである。

31 庭の周囲の台座、庭の入り口の台座、幕屋のすべての釘、および庭の周囲のすべての釘を作った。

39

1 主がモーセに命じられた通りに、彼らは青色、紫色、緋色の糸を用いて、聖所で仕えるための精巧に織られた衣服を作り、アロンのための聖なる衣服を作った。

2 彼は金、青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布でエポデを作った。

3 彼らは金をたたいて薄い板にし、それを切り分けて糸にし、熟練した職人の細工として、青色、紫色、緋色の糸、および亜麻布の中に織り込んだ。

4 彼らは互いにつながる肩ひもを作り、それは両端でつながれていた。

5 主がモーセに命じられた通りに、それを結びつけるための、エポデの上にある巧みに織られた帯は、それと同じような細工で、それと一体であった。すなわち、金、青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布で作られた。

6 彼らは縞めのうを金の枠にはめ込み、イスラエルの子らの名前に従って、印章を彫るようにしてそれを彫った。

7 主がモーセに命じられた通りに、彼はそれらをエポデの肩ひもに付け、イスラエルの子らのための記念の石とした。

8 彼は熟練した職人の細工として、エポデの細工と同じように胸当てを作った。すなわち、金、青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布で作った。

9 それは四角形であった。彼らは胸当てを二つ折りにした。二つ折りにして、長さは一スパン*、幅も一スパンであった。

10 彼らはその中に四列の石をはめ込んだ。第一列はルビー、トパーズ、緑柱石の列であった。

11 第二列はトルコ石、サファイア†、エメラルドであった。

12 第三列はヒヤシンス石、めのう、紫水晶であった。

13 第四列はクリソライト、縞めのう、碧玉であった。これらは金の枠にはめ込まれていた。

14 石はイスラエルの子らの名前に従って十二あり、彼らの名前に従うものであった。印章を彫るように、十二部族のために、それぞれ名前に従って彫られていた。

15 彼らは胸当ての上に、純金で撚り合わせた編んだひものような鎖を作った。

16 彼らは二つの金の枠と二つの金の環を作り、その二つの環を胸当ての両端に取り付けた。

17 彼らはその二つの金の編んだ鎖を、胸当ての端にある二つの環に通した。

18 二つの編んだ鎖の他の二つの端を、彼らは二つの枠に取り付け、それをエポデの前面の肩ひもに取り付けた。

19 彼らは二つの金の環を作り、胸当ての両端、すなわち内側のエポデに向いている側の縁にそれを取り付けた。

20 彼らはさらに二つの金の環を作り、それをエポデの二つの肩ひもの下部、前面のつな

* 39:9 39:9 一スパンは、大人の手が広げられた時の親指の先から小指の先までの長さ

† 39:11 39:11 あるいは、ラピスラズリ。

ぎ目の近く、エポデの巧みに織られた帯の上に取り付けた。

21 主がモーセに命じられた通りに、彼らは胸当ての環とエポデの環を青いひもで結びつけ、それがエポデの巧みに織られた帯の上であり、胸当てがエポデからずれないようにした。

22 彼はエポデの上着を織物細工で、すべて青色で作った。

23 その真ん中にある上着の穴は、よろいの穴のようであり、それが裂けないように穴の周囲に縁取りがあった。

24 彼らは上着の裾に、青色、紫色、緋色の糸、および撚り糸で織った亜麻布でざくろを作った。

25 彼らは純金の鈴を作り、その鈴を上着の裾の周囲にあるざくろとざくろの間に置いた。

26 主がモーセに命じられた通りに、奉仕のために着る上着の裾の周囲に、鈴とざくろ、鈴とざくろを交互に配置した。

27 彼らはアロンとその子らのために、亜麻布の織物細工で長服を作った。

28 亜麻布のターバン、亜麻布の頭帯、撚り糸で織った亜麻布のももひき、

29 主がモーセに命じられた通りに、撚り糸で織った亜麻布、青色、紫色、緋色の糸を用いた、刺繍をする者の細工による飾り帯を作った。

30 彼らは純金で聖なる冠の札を作り、印章を彫るように、その上に「主に聖なるもの」と碑文を書き記した。

31 主がモーセに命じられた通りに、それに青いひもを結びつけ、上のターバンに取り付けた。

32 こうして、会見の天幕の幕屋のすべての仕事は完成した。イスラエルの子らは、主がモーセ

に命じられたすべてに従って行った。そのように彼らは行った。

³³ 彼らは幕屋をモーセのもとに持って来た。天幕とそのすべての器具、その留め金、その板、その横木、その柱、その台座、

³⁴ 赤く染めた雄羊の皮の覆い、ジュゴンの皮の覆い、仕切りの垂れ幕、

³⁵ その横木が付いたあかしの箱、贖いの座、

³⁶ 机、そのすべての器具、供えのパン、

³⁷ 純金の燭台、そのともしび、整えられるべきともしび、そのすべての器具、灯火のための油、

³⁸ 金の祭壇、注ぎ油、香りのよい香、天幕の入り口の幕、

³⁹ 青銅の祭壇、その青銅の格子、その横木、そのすべての器具、洗盤とその台、

⁴⁰ 庭の幕、その柱、その台座、庭の入り口の幕、そのひも、その釘、会見の天幕のための幕屋の奉仕に用いるすべての器具、

⁴¹ 聖所で仕えるための精巧に織られた衣服、すなわち祭司アロンのための聖なる衣服と、その子らが祭司として仕えるための衣服である。

⁴² 主がモーセに命じられたすべてに従って、イスラエルの子らはそのすべての仕事を行った。

⁴³ モーセがそのすべての仕事を見ると、見よ、彼らは主が命じられた通りにそれを完成させていた。彼らはそのように行っていた。そこでモーセは彼らを祝福した。

40

¹ 主はモーセに語って言われた。

² 「第一の月の最初の日、あなたは会見の天幕である幕屋を建てなければならない。

3 あなたはその中にあかしの箱を置き、垂れ幕でその箱を覆いなさい。

4 あなたは机を運び入れ、その上のものを整えなさい。燭台を運び入れ、そのともしびに火をともしなさい。

5 あなたは香をたく金の祭壇をあかしの箱の前に置き、幕屋の入り口の幕を掛けなさい。

6 あなたは全焼のいけにえの祭壇を、会見の天幕である幕屋の入り口の前に置きなさい。

7 あなたは洗盤を会見の天幕と祭壇の間に置き、その中に水を入れなさい。

8 あなたはその周囲に庭を設け、庭の入り口に幕を掛けなさい。

9 あなたは注ぎ油を取り、幕屋とその中にあるすべてのものに油を注いで聖別しなさい。そのすべての器具も聖別しなさい。そうすれば、それは聖なるものとなる。

10 あなたは全焼のいけにえの祭壇と、そのすべての器具に油を注ぎ、その祭壇を聖別しなさい。そうすれば、祭壇は最も聖なるものとなる。

11 あなたは洗盤とその台に油を注ぎ、それを聖別しなさい。

12 あなたはアロンとその子らを会見の天幕の入り口に連れて行き、水で彼らを洗わなければならない。

13 あなたはアロンに聖なる衣服を着せなさい。そして彼に油を注いで聖別し、彼が祭司としてわたしに仕えることができるようにしなさい。

14 あなたは彼の子らを連れて来て、長服を着せなさい。

15 あなたが彼らの父に油を注いだように、彼らにも油を注ぎなさい。彼らが祭司としてわたしに仕えるためである。その注ぎの油は、彼らの代々にわたる永遠の祭司職のためとなる。」

16 モーセはそのようにした。主が命じられたすべてに従って、彼はそのように行った。

17 第二年の第一の月、その月の最初の日に、幕屋は建てられた。

18 モーセは幕屋を建て、その台座を置き、その板を立て、その横木を通し、その柱を立てた。

19 主がモーセに命じられた通りに、彼は天幕の上に覆いを広げ、その上に幕屋の屋根を掛けた。

20 彼はあかしを取り、箱の中に納め、箱に横木を付け、箱の上に贖いの座を置いた。

21 主がモーセに命じられた通りに、彼は箱を幕屋に運び入れ、仕切りの垂れ幕を掛け、あかしの箱を覆った。

22 彼は会見の天幕の、幕屋の北側、垂れ幕の外側に机を置いた。

23 主がモーセに命じられた通りに、彼は主の前の机の上にパンを整えた。

24 彼は会見の天幕の、幕屋の南側、机の向かい側に燭台を置いた。

25 主がモーセに命じられた通りに、彼は主の前にともしびに火をともした。

26 彼は会見の天幕の、垂れ幕の前に金の祭壇を置き、

27 主がモーセに命じられた通りに、その上で香りのよい香をたいた。

28 彼は幕屋の入り口に幕を掛けた。

29 主がモーセに命じられた通りに、彼は全焼のいけにえの祭壇を、会見の天幕である幕屋の入り口の前に置き、その上で全焼のいけにえと穀物のささげ物をささげた。

30 彼は会見の天幕と祭壇の間に洗盤を置き、洗うためにその中に水を入れた。

31 モーセ、アロン、およびその子らは、そこで手と足を洗った。

32 主がモーセに命じられた通りに、彼らが会見の天幕に入る時、また祭壇に近づく時に、彼らは洗った。

33 彼は幕屋と祭壇の周囲に庭を設け、庭の入り口の幕を掛けた。こうしてモーセはその仕事を終えた。

34 その時、雲が会見の天幕を覆い、主の栄光が幕屋に満ちた。

35 雲がその上にとどまり、主の栄光が幕屋に満ちていたため、モーセは会見の天幕に入ることができなかった。

36 雲が幕屋の上から取り上げられる時、イスラエルの子らはいつも旅立った。

37 しかし、雲が取り上げられない時は、それが取り上げられる日まで彼らは旅立たなかった。

38 昼は主の雲が幕屋の上であり、夜は雲の中に火があつて、イスラエルの全家の目の前で、彼らのすべての旅路においてそれが見えたからである。

フリーダム・バイブル
**The Holy Bible in the Japanese Language, Freedom
Bible translation**

Public Domain

Language: 日本語 (Japanese)

この聖書翻訳には著作権が設定されていません。この聖書翻訳の公式な配布元は eBible.org です。これは翻訳の草案です。この聖書翻訳をより良いものにするため、改善のご提案を ebible.org+jpnm@gmail.com までお寄せください。

2026-07-08

PDF generated using Haiola and XeLaTeX on 8 Jul 2026 from source files dated 8 Jul 2026

8daadcbf-1b7a-51a2-98ce-7e95a9e95424